陸軍少將森岡正元著

馬目

51
523

馬曰く目次

發端

(一) 紳士馬仙臺號　一頁
(二) 荷馬車用冬號　二
(三) 荷馬車用夏號　三
(四) 駄馬有馬號　二九
(五) 競馬外廻り號　三三
(六) 乘馬竹庵號　四〇
(七) 乘馬和流號　四七
(八) 民間種馬號　五二　五六

昭和
41 6 9
交内

(九) 乘馬　口向號　五九
(十) 乘馬　閲覽號　六五
(十一) 乘馬　振り落し號　七四
(十二) 乘馬　放馬號　七六
(十三) 乘馬　咽と締め號　七七
(十四) 放馬　難捕號　八〇
(十五) 乘馬　角兵衛號　八八
(十六) 乘馬　薄墨號　九二
(十七) 乘馬　受負號　九四
(十八) 乘馬　ソーダロ號　一〇〇
(十九) 乘馬　軍刀號　一〇四
(二十) 乘馬　乘前號　一一一
(二十一) 乘馬　濠洲號　一一六
(二十二) 癖馬　鐵槌號　一二一
(二十三) 種馬　荒火矢號　一二三
(二十四) 洋馬　曲馬號　一二九
(二十五) 駄馬　應召號　一三四
(二十六) 乘馬　片口號　一四一
(二十七) 乘馬　拒退號　一五五
(二十八) 乘馬　拍車號　一六〇

(二十九) 乘馬 調馬索號 一六四
(三十) 乘馬 駈歩號 一七一
(三十一) 乘馬 儀式號 一七六
(三十二) 乘馬 渡船號 一八一
(三十三) 乘馬 仰反號 一八五
(三十四) 乘馬 裝鐵號 一八九
(三十五) 駄馬 二人掛り號 一九五
(三十六) 小馬と大馬の爭論 二〇〇

馬曰く

發端

明治聖代の有難さ聖恩獸類に及ひ爰に馬匹の樂園なる老馬放牧場を設けられ各種の馬匹を收容し來ること恰も人間の廢兵院の夫れに等し此の樂園は夏涼しく冬暖かに追込厩あり之れに入りて臥すべく四時青草の絶ゆる事なき其上に豆麥秣等需むるに隨つて自在に得らるへき設備とはなれり偖て各方面より集まり來れる馬匹には各種の用役馬あり内國産あり外國産あり其數無慮數百頭皆是れ忠實に國家の爲め獻身の實を盡したるものなり

此等の馬匹が此樂園内に在て悠々自適の間既往を追懷し互に己が服したる實動上の述懷談をなしつゝあり之を集て記錄すれば左の如くである

(一)紳士馬　仙臺號

馬車兼乘用の紳士馬仙臺號曰く俺あ奥州仙臺の産れで俺が生れた時は俺の宅では餅を搗て祝ふて吳れて夫れ以來嶽よ花よと育てゝ貰ふたのだが四歳の春になつて或る馬商の爲めに買はれて東京に出たと思し召せ其時は俺の主人始め家内一同別れを惜んで泣いて吳れたよウゴデ馬商の手に牽かれて東京に着いた以來と云ふものは早く俺を

何處へか賣り飛ばし儲かる一方の慾張り連の手に掛かり飼料も成る丈け廉價を主とするので外の馬丁の胡麻化し麥を買ひ集めて而然も夫れを少々宛あてがはれて切り藁斗り多く喰はせ水斗り多く呑ませユブ〳〵する處の肉附き工合で所々方々牽摺り廻され毎日々々見せ馬に歩るく事よ其中ち緣あつて或る紳士の宅に賣られたよ俺の價は仙臺で五十兩で有つたが茲へ賣られた時百五十兩で夫れに馬商と馬丁と馭者とがグル〳〵に成つて馬丁と馭者とが各々二十五兩宛取るとの約束でな且那はトウ〳〵馬商へ二百兩を渡したよマダ其上に且那は馬丁と馭者とに十兩宛の心ろ附けを遣つたとはた心ろ著しの骨頂でないか此樣な紳士が馬を買ふにはザット五割位は高く買はされ

るねッュデ俺の任務は何かと思つたら一頭輓きの馬車を輓て會社へ行くのと或る時は乘馬として乘り廻すとの事よ然らは如何にして俺に其馬車の輓き方を敎へるかと思へは行き成り俺に輓具を附けて厩から牽出し行き成り馬車にクッ附けられたよサア俺あ始めて靠具や馬車を裝着せられたもんだから戰慄して怕くてお溜りこおしがないじやないか夫れにも構はず無情無識の馬丁や馭者奴がサア行け々々と鞭を振り轡を引くから溜らない一歩歩るけば輓具の身體に感じる車の異樣なのと後から馬車がガラ〳〵響いて輾るのとで俺あハア最早恐怖の極點に達し戰慄狂となつたよ此場合に至るも馬丁や馭者は曰くさ何に今に往生して馴れるよ少しの危險は當り前た虎穴に入らされは虎兒を獲ずだヤレ〳〵抔と吐すではないか俺も最早辛抱が仕切れぬ縱令ひ人間を引倒し馬車を碎いても構はぬ俺の罪でない俺あ戰慄の極知覺失喪た假令ひ裁判所へ牽き出されても無罪放免だヤレヤッ附けろと一目散に駈け出したよスルト廻り角の犬の小便石に車輪を打ち當て〳〵馬車諸共倒れたよ此時は馬丁も馭者も靑く成つて輓具を放して吳れたよ所謂倒れて後ち止む處迄やつ附たよ馬丁や馭者は此畜生强情奴かと吐すではないか一體全體ヶ樣な仕込方が世界廣しと雖も有るであろをか日本人の畜類取扱法と來たら實にお咄にならぬよ假ひ俺の樣な恐怖性の馬でもな順序能く馴してさへ吳れ〳〵は何んの馬車を輓くも且那を乘せるも造作のない事よ俺が大略俺の意

志を咄すから諸馬各位聽き給へ諸馬君の中にも俺と同樣見慣れ聽き慣れぬ物には恐怖するは當り前だろふよ夫だから先つ輓具を裝するにもだね其輓具を眼前に持來りたる時靜かにホーホーとでも呼ひつゝ俺に示し恐怖せしめぬ樣に食物杯與へて與れてさ徐々と裝着して與れて夫から愈々輓具を裝し了れば先づ俺を馬車の側へ連れ行き輓具を馬車に緊着せないで偖りに馬車は人が引き俺と共に行進させて俺を轅木の間に置て恰も俺が馬車を輓いた姿を粧ふて馴すのだ夫から段々と馬車の轉がり輾る音に馴れた時分に人の片手にて輓綱を持ち片手に轅木を持ち俺の肩や胸部に感しても恐怖せぬ樣に徐々に仕込んで貰へは俺だつて豈敢て貴重の馬車を粉碎せんやだ（ヒヤ〳〵）

所謂灼々たる園中の花的では不可ぬよ願くは鬱々晩翠を含むの結果に仕込んで貰ひたいね人間も急けば廻れとか急いでは事を仕損じるとか言ふ處の諺は知つて居るがサテ實行と成ると出來難いものと見へるね慣重の態度杯と口癖せに言ふ癖にゝ何しろ俺が人間の爲めに働く處の舵機の感觸と言ふものは馬車なら鞭一本と長い轅とで遣ひ乘馬なら手と脚との感觸とで使はるゝので有るからソウ急速にオイソレと出來るもので無いよ言葉の分る人間でさへ買物に行て大間違の品物を買つて來るではないか新兵に右向け右と號令すると濟し切つて左り向く奴があるじやないか俺等馬匹が行き成り人間の思ふ通りに成らぬとて打つたり蹴たり亂暴するとは偖々無理非道の極では

ないか俺等同類の犬や猿杯に藝を仕込む處の老練者の温和忍耐能く動物の心性を察知し氣長く敎へて成効する處の結果を知らせたいもんだな此俺等と同類なる犬や猿杯に向ひ若しも藝に慣れぬとか仕方が不可いとか言つて一と打ち鞭で打て見よサア事だ其後到底言ふ事を聽かぬ計りか人さへ見れば逃け出すわ此位い分り易い道理が何せ人間に分らぬたろふ併し充分に敎へられた後ち俺等が横着を遣る時はソリヤ打たれても叩かれても仕方は無いがね兎も角も言葉の分らぬ俺等だからね充分に馴して反復仕込んで呉れて所謂身手期せずして到る的の程度にして欲いね俺等馬匹も斯くも無法の待遇に逢ふても何處迄も從順に人に抵抗せぬとはアア何と言ふお心ろ善したろと

思ふよ俺あ全體日本馬匹が無氣力無神經なる結果として人に虐待を受けはせぬかと思ふよ諸馬各位今後若し無法の取扱をなす處の馬丁や調馬手抔に向つては願くは横腹を蹴つて再ひ立つ能はざらしむるか或は兩耳を超へて二三先きへ投け出す處の勇氣即ち悍性あらん事を望むのである今若し俺等馬匹の勢力此の如きに至れば必ずや人間の方に於ては温和なる媾和的態度に出づるの外手段勿からんと思ふよ何となれば彼れ調馬手等は其身の危險なるが爲め俺等馬匹に向つて將來無法の暴舉に出でざるべきを信ずればなりた

夫れから俺あ馬車用には駄目だと言ふので乘馬の仕込みをせられたよ併し俺の考へでは今少し面倒を見てソロ〳〵と馴して呉れさへす

れば充分馬車も輓けるだろふと思つたけれどな到底アノ馬丁と馭者との遣り方では覺へ切れないと諦めたよ何せ人間はアノ樣に氣短かく不親切であろふか馬匹改良も必用だが騎手や馬丁の改良が先決問題だね俺等馬匹の改良が出來れば出來る程悍性が強く成つて少しの事にもビリ〳〵する樣になるわ斯く俺等仲間が鋭敏々捷に成ればなる程愈々以て人間は落第さ實に浩歎に堪へぬでは無いか願くは俺等馬匹の改良と共に人間改良が仕てほしいな

ソコデ今度は俺に鞍を置て下手糞馭者が乘ると言ふ一條に成つたと思し召せ俺あモウ以前の馬車で懲々して居るから早く已に鞍褥や鞍杯を見ると慄々したよ所が馬丁も馭者奴も平氣の平左で無理遣りに俺に鞍を置いたよソウシテ牽き出されたよソウシテ俺に乘つたよ俺あ怨怖くて溜らぬから背中を縮めて地段駄踏んたよスルト馭者の奴つめ諸くも轉がり落ちたよサテ今度は馬丁奴が確かり俺の口を高く上げて押へ附けて置いて又た馭者を乘せたよ馭者奴も怕々ながら再ひ乘り上つたよ乘り上ると同時に矢庭に俺を追ひ出したよ夫から追ふわ〳〵〳〵長い間た汗ビッショリに成る迄追ひ詰められたよ俺あ殘念で泣きたかつたよ人間に服從すれば半死半生の境界迄も追ひ廻わされ從はねば虐待されると言ふ始末で所謂忠ならんと欲せば孝ならず杯の酒落所の騒さでないよ實に進退維れ谷まるとは俺等の境遇で有ふよ何せ人間はケ樣に暴威を振ふで有ふか何せ人間は俺等の心を

納得させ妥協的教訓的に温和に仕込んで呉れぬで有ふか若しも俺が鞍置に恐怖するなれば先つ鞍を眼前に見せて食物抔を與へて怖くない怖くない安心せよ々々々々と可愛かりつゝ教へつゝ鞍を背に載せる事を調教して呉れぬで有ふか併し夫れも只一遍では俺を滿足せしめ恐怖心を去らしむるに足らんよ反復數回日を重ね時を重ねて氣長く仕込んで呉れねば駄目たよ試に人間の奴等に比較して見よ人間の奴等は幾度叱られても中々以て悪戯を改めぬでは無いか訓戒々飾に對しては比較的俺等馬匹の方が餘つ程怜悧に且つ從順だと思ふよ夫れから乘馬する即ち鞍の上に跨るにしても先つ手を以て鐙を持ちつゝ之れに重みを附けつゝ足を入れて重る處の豫行演習を成した

る後ちソロ〳〵順序を進めて遂に足を鐙に入れる如くしてさ諸事此通りに百歩は一歩より始むる處の原則に從ひ實行するならば何も人馬共にお互に怪我あやまちの有る筈は無いがねソコが人間の淺謀短慮でな遠き慮りのないのはお氣の毒千萬だよ夫から口を輕くするとか操作を自在にするとか言ふ事は是れは又た一種の專門家と相待つて言ふへき事で諸馬各位中の實驗馬に讓る事とし俺あ敢て茲に言はね事とする

俺あ以上の結果で旦那を乘せてもドウモ危險ないと言ふ事に評議一決して又もや身賣りの始末と相成つたよ諸方から望み手も續々來たよ處ろが馬車は碎いた鞍上からは馭者を抛り投げたとの評判でな誰

れも買手が無いよ或る日某馬術家が俺を見てなトウ〳〵買受けの相談が出來たよ馬丁と馭者とは又々例に由て例の如く旦那の直段より倍以上の額に俺を賣つてマダ其上に旦那から心ろ附けをせしめたよ事態斯の如くで有るから馬丁や馭者は實際旦那の氣に入る樣な馬を買はせぬよ何せなれば賣買する毎に彼等の儲けが有るからよ旦那も其不忠者奴に向つて其度毎に心ろ附けを遣るとはマア何んたる莫迦旦那で有ろふか

俺あ其日から馬術家の宅の厩に繋がれたよ以前の紳士の宅とは大違ひでな飼料もキチンと與へられるし手入の時も時々愛撫を受けつゝ温和の聲を聽きつゝ愉快に清潔にして呉れたよ偶々俺が恐怖でもすると ホーホー怖くないよ怕るでないよと夫れは々々穏かに教へて呉れるのよソコデ俺も安心してな諸事萬事此通りならドンナ言ふ事でも聽くベイと考へたよ

夫れから俺あ調馬索でな廻し運動を施されたよ是れも俺あ初めての事で一向分らぬからドウする事か又もや以前の紳士の馭者の筆法では無いかと戰慄ものて悸へて居ると馬術家先生沈毅犯す可らす温柔能く馬を懷くと言ふ風采でな馬丁に索の端を持たせ先生自から俺に接近して俺の頸を撫で鼻面らを擦り俺に食物を與へて靜かに輪線上に導いて呉れたよソウシテ數回牽かれて廻つたよソコデ俺もハヽアー先生は俺を此輪線上に行進せしむる事だなと曉つたよ夫から段々と

先生は俺から遠かりつゝ長鞭を腰の方に示し始めたよ同時に舌鼓を鳴し始めたよソコデ俺あ背中に人を載せては居らず裸か身ではあるし身輕であるから俺あ一目散に駈け出したよスルト先生ホーホー靜かに々々と言ふではないか又先生の俺に伴ふ態度が靜かにせよと見ゆるでは無いかソコデ俺あ歩度を減して短縮速歩を取るや否や先生得意の顏附きと態度とを以て宜しい々々と言ふて吳れるわ暫く輪線上を行進すると今度はホーウと一聲高き活音と共に索を引て輪線の中央先生の面前に牽き入れられたよソウシテ食物を吳れて愛撫を受けたよ夫から順次右手前左手前と約一時間も運動したら俺も氣分が落ち附き大分怖氣を消失してな常に先生や馬丁の居る方に接近して可愛がられたい食物を貰ひたいと思ふ心が出來たよサア斯うなると俺も此先き諸事萬事先生や馬丁の言ふ事を聽て褒美を貰ふ事のみ考へる樣になつて來たよ

數日を經て俺が大分沈靜なる美性に慣染した處を見て取つた先生は俺に鞍を置くと言ふ一條になつたよ俺あ又々以前の紳士の宅の事を追懷してな聊か恐怖せさるを得なんたよ併し流石先生でな以前の馭者とは其擧止態度が丸で違ふよ一擧手一投足も中々以て注意を拂つて居るよ夫れで俺も稍々恐怖の苦痛を減すべしと豫想したよ然り而してさ其時分俺あ少々厩の釘か何んかでな口の附近を傷つけて居つてな口を取らせる事を嫌ふたよ先生忽ち此點に氣が附いてな靜かに

俺の頬べたに手掌を當てゝな俺の頬べたを幾遍も々々ソロ〳〵擦りつゝさ此處を怪俄して疼いのか可愛相に決して疼い樣に口を取らんから靜かに從順にせよや恐怖がる事は無いぞ杯と言つて俺の口角に靜かに指を入れて裝勒して吳れたよ先生マダ〳〵是れでは不可ん尙だ々々予が簡單な習慣を附與してやる口角を取らずして汝自から來つて勒を含む如くしてやると言つてな俺の勒を外づして更に俺の鼻先きに持ち來たし其片手には食物を持ち俺の口に勒を入れては直ちに食物を吳れるでは無いか俺も幾度も此事を繰り返さるゝ間にさツィ食物慾しさに勒の鼻先さに來る遲しと喰ひ込む樣に成つたわ夫れ以來と言ふものは俺あ口角杯取られて窮屈な面倒無しに勒を喰む

事と成たよ

サア愈々先生が俺に鞍を置く處のお咄に移ろふかな先生は俺の厩の前に馬具を備へて置てな先つ鞍褥を取つて俺に示すからドウするかと思ふと次に食物を吳れるではないか又鞍褥を見せては食物を吳れ愛撫を與へるではないかサア斯うなると俺あ早く其鞍褥を鼻先さへ見せて貰ふて次の食物が貰ひたいね愛撫が受けたいね茲に於て先生遂に俺の背の方に鞍褥を持ち行き同し筆法を繰り返すではないかソコデ俺あ從順沈靜さへ保つて居れば食物が得られる愛撫が受けられると言ふ事がよ以心傳心分つたよソコデ俺あ愈々先生の勢力範圍に欽まつたと言ふ譯さ夫れでトウ〳〵鞍も素直に沈靜して置かせたと

思召せ夫から俺あ先生が直ちに牽き出して俺に乗る事と思ふてな又例の抛り投げを遣る事かと聊か心配したがな中々以て先生決して左様に踈忽な御振舞は致されぬのよ俺を馬房に兩口に繫いだ儘でな靜に俺の側に寄り添いつゝよ愛撫を與へつゝ食物を與れつゝ手掌を鐙に當てゝね之れに重りを與へつゝギイ〳〵と革の音をさせつゝ恰も鐙に足先を入れて乘り上るかの如くして俺の背中に感じを與へつゝ恐怖せぬ樣に馴して與れる事よソウシテ此動作を右鐙にも左鐙にも交互に連續施すではないか俺も其際感じたよ斯く迄も順序正しく一歩々々と所謂石橋を叩て渡る的の方法を以て馴して與れるならば何れの馬と雖も從順ならさらんや杯と思ふたよ夫から乘馬下馬も俺あ平氣に成つた時分俺を既から牽出したから直く乘る事かと思つたら中々以て尙た乘らぬよ先つ俺を馬場へ連れて行て調馬索で以て充分に運動させられたよソコデ俺の充分空身で運動して愈々沈靜に歸した時分先生靜かに俺に跨つたよ跨つたから調馬索を解て例の駈け出しをやるかと思つたら中々以て尙た調馬索を解かぬよ索を附けた儘馬丁に俺の口を取らせ靜かに牽き出して與れたよ其後尙ほ馬丁に索を持たせて輪乘の中心に置き丁度俺が空身で廻り歩いたと同樣の方法に於て先生徐かに韁を調べ脚を締め鞭の輕打を與へて俺に前進せよと促かすに至つたよ俺あ此始末に感服したよ上には名人の先生が乘り下には馬丁が調馬索を執て俺を掣肘して居るから狂奔抵抗の餘

地が無いわマダ〳〵必用なら幾人でも助手を附けるとの事よ夫れで俺も指導の儘に從順謹愼の態度で短縮速歩を歩いたよ是から先生終始俺を速歩駈歩に追ひ廻す事かと思つたら中々以てソウデ無かつたよ少し歩るいては駐め少し歩るいては駐めして先つ俺に行進間の駐立を敎へたよ駐立が輕く來出れば口向も輕くなると言ふ譯さ理屈たろふ夫から俺に退却の一歩を敎へたよ退却が出來れば愈々益々口向も運動も輕くなると言ふものよ夫から俺に腰や肩を輕動せしむる所の前足旋回とか復足旋回とか横歩とか頭左右とか屈撓法とか諸種の柔軟法の初歩を一歩宛敎へ始たよ是でさ俺も輪線上の行進と頭及肩腰等の運動法の緒ちを覺へたから大分體軀が輕く成りかけて足の運ひも稍々輕く成つた樣に覺へたよ又下馬すると調口法の敎へも受けたよ先生茲に於て初て調馬索を解き柔軟法を勵行せられたから俺あ遂に高等馬術の妙技に達し諸人の喝采を博したよ高等馬術に達する迄の詳細は諸馬各位に咄しても恐くは了解し得なかろふと思ふから且つ餘りに長くなるから茲にて俺の談話を終る事としよふ〳〵ウ

(二)荷馬車用　冬號

荷馬車用冬號曰く俺あ見らるゝ通り不細工な骨計り大きい生れたから生涯運送馬車で濟ましたよ運送屋と言ふ奴は元來下等人間の寄り集りでな俺等を呼ふにも常に此畜生とか彼の畜生とか言つてね此馬

杯とは絶て一度も呼んで呉れた事は無いのよ況んや彼の陸軍の兵士の如く活動武器抔と尊稱を與ふる事は夢にもたゾシテ俺を使役する方法と言つたら只々打つ敲く叱かるの一天張りよ車の上に物を積むにも俺れの輓曳力を目安とせず慾の袋を目安として成る丈け多量に積み上るのだから溜らないわ俺等の輓曳力は負擔力の五倍抔と或書には算定して有るそふなが中々以て十倍も二十倍も積まれるのよ夫れでも道路の堅い處なれば幾ら重くても輓けぬ事は無いが泥濘車轍を沒する悪路とか坂路とかに至つては到底輓き切れないわ此時人間は一時荷物を卸して輕くして呉れるか又は後押しなりとも仕て呉れゝば大いに助かる譯たが幾ら大きな聲で叱り飛ばし幾ら鞭を振り廻はして打たれても敲かれても體力以上の輓力は出ぬよ俺お斯うなると最早打れても叩かれても氣息奄々到底一歩も動く能はざる苦境となるよ然るに人間と云ふ奴は性も慾りもない奴でな俺をケ樣な場所へ暫く其儘に休ませて置て又もやソリヤ行けと急遽一聲打やら蹴るやら大騒をやるよ其度び毎に車轍は益々泥中深く喰ひ込む譯でな到底幾度掛け聲せられても輓き出せよふ筈が無いわ元來彼れ運送屋の行くべき道路は豫め極つて居るでは無いか泥濘車轍を沒し阪路輓力を不可能ならしむるの地形ある事は百も二百も御承知ではないか實に人間と言ふ奴は眼前數歩其先きの分らぬ奴の多いには困るよ其泥路の要所には官の手を待つ迄もなく運送屋自身で或は協同して石や

土を入れて直して呉れたつて宜いじやないか又其阪路の要點には豫め補助の人夫なりとも置きそふなものと思ふよお廻りさんもコリヤ〳〵其樣に馬を打つな抔と言つて呉れても俺の車上の積荷を奈何せんやだ運送屋抔言ふ奴は公德心抔は露微塵もない奴で御自身が困難した泥凹も俺を打ち叩いて辛ふして已れ自から通り過ぎれば後から來る車の爲めには何の注意も拂はぬ計りか却て後の車も泥濘に沒して困難せよと言はぬ計りの顏附きで行つて仕舞ふわ動物虐待禁止抔は前途尙ほ遼遠だよケ樣の有樣で毎日々々辛ふして目的地に達し歸りにも亦た幾許の荷物を運んで來たよ冬の夕暮れ北風凜冽膚を襲ひ雪霏々として面を撲つの場合俺が且那は俺を吹曝らしの路傍に而か

も動けぬ樣に前足を縛つて置いてさ御自身は居酒屋に這入て寒さ凌きに濁酒一杯聞こし召す事よ長い間だ管を卷いて俺をシて待ち草臥れさせてさ漸つとの事で跟蹌として鼻唄もので出御に成つて曰くさアア此勢で行けと言ふじやないか成る程彼れ御自身は濁酒一杯の微醺機嫌があるに相違なしと雖とも俺あ只前足を縛られて立つて居た丈けよ此勢で行けもあつたものじや無いわ

ソコデ俺等仲間で折々新聞に出る通り馬は何に驚きけん突然荒れ出し抔と書てあるが皆是れ俺等の不平と同樣其結果が爆發するのよ願くは少しでも彼等運送屋連中に俺等を可愛がる習慣を養ふて貰ひたいね彼の軍隊の如く愛撫とか温和とか忍耐とか言ふ語を敎へて貰ひ

たいね年が年中叱り飛ばさる計りが俺等の生得でもあるまいよ俺が力ら一杯に膝も腰も屈曲る如くに働いても一言の御褒詞もないとすれば實以て俺等嫌厭に成らさるを得んやた事態斯の如くであるから其處の宅の子供等迄も俺を輕蔑して悪口を叩くのみか遂には俺に石や竹切れ抔投げ附け悪戯の對手とするに至るわ斯うなると俺も一と思按してね茲一番恐喝かして遣ろふと言ふ考へが出たよソコデ石や竹切れ抔持つた處の子供等が俺の前に來ると齒を剝き目を瞋らし耳を伏せて飛び掛つて遣つたよスルト子供等は青く成て一生懸命逃げ出したよ俺も此時締めた此手段で行けば彼れ人間の輕蔑を免かれ虐待を減するものと思ふたよ其後ち此手段で子供等は寄せ附けなかつたよ世人皆な日本馬が悪るい猛獸だ抔と言ふけれどね夫れ然り豈夫れ然らんやた俺等元來生れながらにして一點微塵の悪意は無いよ唯た戒心と驚怖の念の有る計りよ夫れに何ぞや無情虐待其極遂に餘計なる悪戯嘲弄を以て人が俺を悪意に導くでは無いか導かれて悪意に陷る豈に俺等の罪ならんやた目下の急務は馬匹改良よりも人間改良に在りたねナト小學校抔でも動物愛護の精神を涵養して貴ひたいね獨り俺等のみならず犬や猫抔も隨分無理非道の虐待を受けつゝ有るからねフゝゥ

(四)荷馬車用　夏號

荷馬車用夏號曰く君が今咄した處は冬の有樣だが俺あ小しく夏の苦心談と滑稽談を遣ろふかね三伏の苦熱其度は九十餘度炎威赫々として石を爍かすが如き日蔭少なき田畝道畫は蠅に夜は蚊に攻め立てられる其苦しさ而かも偶々駐立して休憩に移れば既に君の言はれし如く前足を縛らるゝと言ふ始末よ俺あ常に肥料を運搬する職業だから虎列拉や赤痢の卵子を積んで歩るくのよ夫れであるから蠅や蚊は益々多く俺に蝟集るのよドウシテ俺あ虎列拉や赤痢に罹らぬかと不思議でならぬよお廻りさんや役人抔はやれ清潔だの健康だのと矢釜しい事計り言つて居るが何せ此の蠅や蚊の征伐を遣らぬであろふか塵埃や人糞を載せて歩るく處の俺の荷馬車の蠅や蚊は此處彼處の人家に分配しつゝ歩るくではないか其蠅は糞尿を附けた儘直ちに飯や菓子の上に止まるじやないか其蚊は病毒を吸ふた儘人馬の皮膚へ注射するではないか何せ此の病毒傳播の最捷路を防がないたろふか夫れは兎も角俺の主人も時々暑氣拂ひと稱して途中で燒酎をお煽り召さるわ醉歩蹣跚鼻唄もので此勢ひて行けは何時も君の言ふ通りよソウシテ荷物の少ない時は荷車の上に日覆を拵へて寐ながら俺を歩るかせると言ふ始末よ或る日の事一杯機嫌で車の上で鼻唄と來てさ上げ句の果てには寐て仕舞つたよ俺あ汗水垂らして道路の坎坷と戰ひつゝあるのに俺の車の上で高鼾とは偖々情けない無情漢では有るまいかソコデ俺も刧腹だから歩るく事を止めて道路の外の風通しの宜い

木蔭の涼しい麥畑に這入てさ儘よ誰の麥畑でも構ふものかとサンザッ腹麥を喰て遣つたよ日はドップリ暮れ掛つてよ御主人公ソロ〳〵お眼が醒めたよサア大變怒るまい事か自分の寐たのは棚へ上げて何んだ貴樣あ此蓄生餘所の畑の麥を喰つて而かも二三畝平らげやがつたぞ何せ早く宅へ歸らぬかと打たり蹴たりするではないか俺あ腹も立つ可笑しくもある主人の奴はプウ〳〵言ふ大騷動を遣つた事も有つたよ俺も平生の取扱が善ければ此時素直に醉つ拂ひを載せて宅へ歸つて遣る譯だがねソレ平生が平生だからね鳥渡困らして遣つたよフ、ヽヲ

(四)駄馬　有罪號

駄馬有罪號曰く俺あ車輓くと違つて背の上に荷物を載せて歩るくから險阪泥路と戰ふ事の艱苦は荷馬車君の樣な事はないが併し其荷物を常に右と左りと不平衡に載せらるゝには弱るよソシテ荷馬車君の樣に大勞力を課せられぬ代りに麥抔穀類の給與方が少くないのよ大概青草や藁抔で胡魔化して仕舞はるゝのよ其證據には俺の垂れた糞を見な不消化な藁の組織計り其儘に排泄せられて恰も壁土の寸莎には持つて來いと言ふ樣な奴よ夫れそ俺あ充分の肉附きになる事が出來ぬのよ夫れが爲め聊か痩せ肌と來て居るからね駄鞍の鞍褥で肩胛

骨の處を擦り剝くのよ人間は之を鞍傷とか唱へて居て軍隊抔では大層預防し注意して手當して居ると言ふ事だが俺等民間の奴等は平氣の平左で別段手當も仕て呉れぬのよ俺も今少し穀類を與へて貰つて肉を附けて呉れたら斯うも鞍傷に罹るまいと思ふたよ此鞍傷も鞍を卸した時綺麗に洗つて冷却でもして蠅の喰はぬ樣に覆ひでもして呉れゝば早く癒る譯だが馬方の奴め等打ち捨てゝ手當抔はせぬのよ夫れで俺の傷口には蠅が澤山蝟集つて喰ひ散らすのよ此結果で傷は益々大きくなる計りで未來永劫全治の見込無しさ何んと慘酷な始末では無いかソウシテ漸くと寒く蠅の居らぬ時分に成つて大きな贅肉を殘して癒るよ全體俺等を使役する人間は亦俺等を保護すべき義務あり と思ふのに何せ人間は斯く懶惰に斯く無情だろふと思ふよ

俺あ昔し蹄鐵の始まつた時分其以來も久しく藁沓を穿いて歩るいたよ併し其藁沓も偶々の事で多くの場合跣足て歩るいたよ跣足で硬い道を歩るくと俺あ蹄が減つて跛行に成りはせぬかと心配したよ俺の主人の馬方奴の言ひ分に曰ぐさ鐵沓を打つと足が悪るくなると言ふじやないか俺の蹄の減つて跛行に成る事を知らぬのよ而して藁沓を穿くとすると一足三錢としても天氣の悪い日には一日三足も穿くわソウすると一日九錢で一ヶ月二圓五十錢の割だよ鐵沓を打てば一回五十錢で三四十日は大丈夫よ其差引勘定が分らぬと言ふ譯でも有るまいが矢張保守的の迷信謬想で有つたよ丁度人間のチョン髷や帶刀

の樣なものよ其後に至り遂に蹄鐵を打つ事に成つたは宜いがサテ愈々蹄鐵裝着の實行となると蹄鐵屋に賴んで成る丈け厚い蹄鐵を打つて呉れよと注文するでは無いか俺あ何の事かと思つて居たら其厚い蹄鐵で二ヶ月も三ヶ月も其儘改裝せずして持ち續けよふと言ふ妙案さ驚いたね幾ら蹄鐵が減らないとて落ちないとて俺の蹄は生きて居るから延ひるわ蹄が四分五分も延ひて見給へコッ〳〵躓いて歩るけたものでないわ此の見易き道理を御存し無いので蹄鐵さへ落ちねば三ヶ月經過ても改裝して呉れぬとはマア何んたる無稽であろふか蹄鐵屋では早く改裝すれは夫れ丈け錢儲けが有る代りに俺の主人の方では一日でも遲く改裝すれば夫れ丈け勘略すると言ふ譯でがな有ふよ去り乍ら蹄の延長の爲めに四肢の垂直を害するとか躓き倒れて剝膝を生するとか言ふ樣なソンナ事は一切萬事お考へ無しよ困つたもんだね

夫から軍馬抔では去勢術と言つて睾丸を拔き去つて騸馬として柔順しくして他の馬と一所に成つても喧嘩せぬ樣に洵とに氣樂に安心の出來る樣に仕て呉れるけれど俺等民間の駄馬は睾丸を其儘存せる駑馬であるから外の馬に障はれば直ぐにヒンとかギヤンとか起つたり蹴たり喰ひ附いたり騷く事よ俺も他の馬から幾度も跳ね附けらるれば三度に一度は跳ね返して遣るよ夫れで俺等民間の駄馬は他の馬と一所に繫く事は出來ぬのよ不便極まるじやないか是と言ふのも睾丸

の有る因果よ睾丸を保有する處の駑馬は彼の多數の俺等が天然牧場に在て一牡て數十匹の牝馬を持つ樣な工合で若し二つの牡馬が在つた時は朝から晩迄喰ひ合ひ蹴り合ひ甲乙孰れか斃れる迄は奮闘するよ兎に角有睾丸は此性質を備へて居るから喰ひ合ひ蹴り合ふ事は俺等の天性として無理は無いよ之れに加ふるに祖先傳來の喧嘩根性の遺傳性を具有して居るから些少と雖ども他馬若しヒンと言へば俺れ之れに對してギャンと應戰せざるを得ないよ特に陽春三月野草萠芽輕暖腐を襲ふの候に際し俺等有睾馬にして豈夫れ發情せざるを得んやだ況んや又牝馬絡繹互に摺れ違ふ處の地方に於てをやだ此等の道理を知らずして俺が荒れるとか悪性だとか難癖を附ける處の人間の心底が分らぬよ何せ俺に去勢を施して而して他馬にも之を施して野蠻の爭闘より救ひ出して呉れぬであろふか「何んだ睾丸を取れ馬が弱くなると」ソリャ今言ふた喧嘩を仕なくなるのよ俺等元來喧嘩する爲め此の世の中に生れて來たではないぞ喧嘩が好きなら熊や狼でも連て來い箆棒奴俺等が發情性爭闘性が止んだなら夫れ丈け沈着して焦慮らぬ故へ持久力は夫れ丈け強い道理なる事を知らざるか何處迄も俺等有睾馬を牽き摺り廻はして不利不便を忍ひつゝあるとは俺あ人間の氣が知れぬよ「何に去勢すれば物に驚くと」ソリャ有睾馬は所謂狂熱性さお先き眞つ暗ら盲目蛇よ去勢馬の驚くのは腦裡沈靜して戒心が深くなるからよ馴しさへすりや直ぐ直るわ若しも始めから

ドンナ物にも驚かぬ無い馬が在つたらソリヤ駑馬よ矢張俺等の様に一生駄馬で此世を過ごす連中さフ、、、ウ

(五)競馬　外廻り號

競馬外廻り號曰く俺あ昔し根岸へも九段へも隨分出たよ俺が一生懸命駈けさへすりや第一着が受合よ併し俺あ内輪に附くのが嫌いでね何時も外と廻りを遣らあソウシテ下手な騎手が乘つたら外柵を飛び超へて馬場の外へ出て遣らあ何せ俺が此様に外輪を駈けたり外柵を飛び超へたりするかと言へばさ競馬の騎手抔言ふ奴は無暗矢鱈らに俺を追ひさへすりやあ俺が益々速く成るとか言ふ様な考へでゞも有るかの如くイヤ何ん分で行くとか蚊ん分で駈けるとか言つて無暗に俺を追ひ廻すのよソウシテ駐めて止める時抔はカラ無茶苦茶で仕舞を附けて行儀を覺へさせて良い習慣を附與して置く抔言ふ事は露微塵も無いのよお負けに俺が片口で有ふが片手前で有ふがメンナ事には御頓着無しよ全體競馬と言ふものは駈け出しには此の位い中程の或る追つ場では此の要領決勝點に向へば最大速力と言ふ様に常に俺を馴して置かねはならぬものよ其馴し方は必ずしも本競馬の通り速力を出すの必用は無いのよ最初の處は速歩で行つて必用な處で速力を伸ばすか又たは駈歩にする様に習慣を附けて置けば夫れで澤山よマダ〳〵常歩でも宜いのよ又た或る時は俺の前に別の馬を行進さし

てさ夫れを俺に速力を出さして乘り超さして置いてさ其處て愛撫する食物を吳れると言ふ樣な按排にすれば俺あ可愛かられ樣と思つて前の馬を乘り超へて見せらあ習慣斯の如くで有つたならイザ本勝負と言ふ場合に臨めばウント飛ふわ必ず勝つわ併し是れ計りでは不可んよ元來俺等に口向きと手前とが必用なので之れに伴ひ頸肩腰等に向つて各々夫々施すべき柔軟法と輕快法と言ふものが有るからね早く言へば騎手の手は俺の口と肩とに其脚は俺の腰と腹とに働いて吳れてさ夫れで其操作に對して俺が極めて輕く從ふ樣に先つ以て仕込んで吳れなければ調教の基礎は立たぬわ船で言へば舵が騎手の手で帆が其脚よ口の強い引駈ける俺等を無暗に追ひ廻すのは丁度舵の利

かぬ船に向つて強風に帆を上げた樣なものよ迚も目的の港抔へ這入る氣遣はないわ旗振りがマダ〳〵と言ふ中にハヤ引駈けて駈け出す駈け出したら一ト廻り廻つて來ねば駐らぬと言ふ樣な無樣な仕込方でドウシテ勝てるものか引駈けて飛び出す處の岩の樣な石の樣な硬い口向きでは速い樣でも存外遲いよ何せなれば途中で俺等に進路を與へて吳れるにも又前の馬を乘り超す爲め外とか内とかへ導かるゝ時にも俺の口へ強い韁の力を與へねばならぬからさ俺の口へ強い力を與へれば與へる程夫れ丈け俺を引き駐めて居ると同し理屈よ併し又之れと反對に俺の韁をブラ〳〵にして口向をガラ〳〵にして吳れては困るよ夫れでは駈けられないよ支點と言ふものが無くなるから

ね速ければ速い丈け適宜に俺の口に支點を與へて吳れねば成らぬよ
夫から俺あ決勝點近く成つて無暗に俺を打つたり蹴つたりするには
困るよ何せなれば俺が一生懸命に駈けるのに邪魔になるよ騎手が鞭
を振つたり脚で蹴つたりする度ひ毎に俺の口には衝突する鞍の上で
は動搖すると言ふ始末で却て速力が減しるわ元來俺あ鞭で打たれ拍
車で蹴られ抔すれば俺の體軀は收縮する理屈だからね夫れよりも充
分なる脚の壓迫力と韁の適當な引合を保つて居つて貰ひたいね委し
く言へば俺が四肢を集めた時に騎手の拳が緊縮して俺が踏ん張つて
飛んだ時に拳が伸暢する如くさッウシテ鞍の上で騎坐の動搖せぬ樣
にさ此の呼吸が甘く來れば俺あ屹度第一着よ

俺が第一着を續けなり取つた時は斯うで在つたよ或る偉い先生が俺
を馬場で仕込んで吳れる事よ其仕込み方と言つたら先つ最初は俺に
柔軟法を施してさ恰も人間が體操して體の凝りを解く樣な理屈でな
旋回横歩屈撓法抔で俺の體を綿の樣に柔軟にして右口も左口も同し
樣に右手前も左手前も自由に出る樣に夫れは々々々柔軟に輕快にし
て吳たよ元來俺の口が片口で有たり俺の體に凝りがあつたりしては
思ふ存分足を伸ばして駈けられないからね夫から俺に內柵に附いて
行く事と必要な地點で歩度を伸ばす事とを專ら仕込んで吳れたよ先
づ駈け出しから常歩でも速歩でも構はぬ出て行くさ夫から曲り角の
如き場處へ行くと成るべく內柵に附て成るべく速度を伸ばす樣に習

慣を附けて吳れるのよソコデ俺が曲り角を速く廻ると一旦駐めて愛撫して食物を吳れると言ふ始末さ俺も其愛撫と食物を受けて休足するのが樂みで成るべく騎手の意に適ふ樣に速力を出したよ決勝點間際で速力を出すのも此筆法で仕込まれたよ夫から時々內柵の內部へ這入つて休足させて貰ふたよ夫れで俺あ何時も內柵に添ふて駐められて食物を貰ひ愛撫を受け又は內柵の內部へ這入つて休足させて貰ふから外柵の方へ寄つたり外柵を飛ひ超へたりする樣な事は忘れたよ成るべく內柵へ附て行て內柵の內へ這入つて休もうと思ひ出したよ又片口の癖も直して貰ふたから喰受けも輕くて飛び心地が宜く成つたよ夫から俺の前の方へ別の馬を行進させて其馬さへ乘り超せば愛撫を受て食物を吳たよソコデ俺あ何んでも俺の前の方に馬さへあれは何時も全速力で駈け拔いて遣つたよサア愈々本場と成ると平素習練の結果は又一段一層奮發するから何時も俺あ第一着よフ、ウ

(六)乘馬　竹庵號

乘馬竹庵號曰く俺あ田舍のお醫者樣の御乘馬でな至つて素直で物に驚くではなし口向きも輕くて毛色も奇麗で步法も優美で何處と言ふ難癖は一つもないわソコデ竹庵樣にも大層なお氣に召してな處々方々田舍道や町中や病家に向つて駈け廻る事よ果して仁術として病者を直しつゝあるか不仁術として藥價のみ貪りつゝあるか其邊は俺れ

にや分らぬがな兎に角諸方駈け廻つて時に寄ると夜中にも行くわツシテ俺あ宅へ歸つても下女や書生抔が飼を附けて吳れると言ふ始末で手入抔は碌々仕て貰へぬのよ俺にも今少し衛生上の注意を加へそをなものよ醫者の癖にさ夫れはソウト俺が且那を乘せて諸方を廻つて見て頓と人間の氣が知れぬ事が有るのよソレハ何かと言ふと人間の奴等は俺を褒めるやら叱るやら可愛がるやら怖はがるやら頓んと分らぬと言ふ事よ俺が町の中など歩るいて居ると宜い馬だなあ畜に書いた樣な馬だなあ綺麗な馬だなあ抔と言ふかと思ふとソリヤ馬が來た危險ない々々々々抔とて右往左往に逃け出すわソウかと思ふと子供等は俺に石を投げたり竹切れを投げ附けたりすらあ褒める怖がる虐めると言ふ始末で何の事やら俺あ人間の氣が知れぬわ俺が或る時或る病家へ行て其所の門の脇に繫がれて待つて居ると子供等が寄り集つて來て俺に笹つ葉抔吳れる奴も有れば又石を投げ附ける奴もあるわ其中若者連中が二三人遣つて來て色々と俺の評判をして居つたがトウ〳〵其中の一人が俺に乘つて見ると言ふ始末よ怪しからん全體人の馬に向つて猥りに乘る抔とは無禮千万無敎育の甚だしい奴よ俺あドコ迄も素直な馬だからシッとして默つて居ると若者奴トウ〳〵鐙へ足をかけて乘り始めたよ所ろが若者奴元來馬に乘つた事のない奴だから俺の右鐙に向つて奴の左の足をかけると言ふ始末よソコデ乘り上つて跨いで見ると後ろ向きよフ、ウ頓痴氣奴何の事だと

思つて居たら奴さん遂に前向きに向き直つて俺の繋き繩を解いて乘り出したわ俺あ此の無禮者奴と思つたけれど元來温從人に逆らはぬは俺等の特性だから其指導の方術は甚た以て不得要領ながら俺あ寧そ自分の宅の方へ行くべイと思つて歩るき出したよ一丁計りも行くと奴さん元の方へ歸へる積りで俺を廻はそふとするわドッコイそふは不可ぬと俺あ首を曲げたなりに俺の宅の方へ四五丁もノッ〳〵と歩るいて遣つたよスルト奴さん大困りでトウ〳〵轉がり落ちる樣にして下りたよ夫から俺を牽て元の處の方へ行くわ丁度其時竹庵樣も御診察が濟んでお歸りとなつて門へ來て見ると俺が居らぬわハテナ放れて逃げたか知らん今迄ソンナ事はせぬ馬だが確かに小仲間で解けぬ樣に繋いで置いたのに是れは不思議と思つて徒歩で宅の方へ歩るき出すと丁度廻り角の所で奴さんが俺を牽て御座る所へバッタリ出逢ふたわソコデ奴さん何と言ふかと思へは當意即妙左の如く言つたわ丁度今御馬が放れて來ましたから私が捕へた所ですと横着千万な事を吐したわスルト竹庵樣はお人善しだから左樣ですか夫れは有り難ふとお禮を言つたわ何んた自分の馬を盜み乘りせられて而して其人に向つて有り難ふもあつたもので無いわ知らぬが佛とは斯んな事か蓋し知つて而して言はぬ處の豪傑なるかソンナ事は俺の知るべき事でないとして仰き願くは學校の先生達ちは其子供等を敎育して俺等に向つて惡戯をせず又無禮を働かぬ樣に敎へて貰ひたいねフ

(七)乘馬　和流號

乘馬和流號曰く俺あ後肢の飛節の屈曲が深くて肩の角度が深く管骨部が長いから和流を仕込んだら宜かろうと言ふので調子とか伸びとか言ふ所の右若しくは左の前後兩足を同時に運ぶ處の側對歩を仕込まれたよ全體此歩法は歩樣に一種の趣味は有るかも知れぬが實用にはならぬよ其譯は右或は左の同一方側の前後兩足を同時に運ぶから回轉運動には甚だ不便なり不利なりだよ夫れで此流義は只馬場を眞直くに歩るいて馬場の終點に至れば歩度を減じて徐かに回轉して又

追ひ出すのよ夫れで日本流の馬場は其幅が狹くて只丈けが長ひ丈けよ是れは太平の餘弊で次第に實用に遠ざかつた結果よ夫れはソウと此流義は俺等を乘るのに仕込みとか調教とか言はずに賣馬と言ふわ此の言葉でハヤ彼等人間の壓制暴虐が分るではないか先つ其賣馬の無智にして天道に戻る點を言へば先第一俺等に口割と稱して三尺帶の如きもので俺の口から頭へかけて力らに仕せて縛り上げるわマダ〳〵細割りと稱する奴でやられて見よ丸で針鐵强盜の夫れ以上よ夫れたから俺の口は上齒と齒下との距離が五六寸も開くわ是れで俺が口向きに抵抗する事が出來ぬとの暴虐手段よコンナ事で馬匹改良が出來て見よ其鋭敏な感覺に向つて此手段を施して見よソリヤ大變忽

ちの中に馬を破壞し去らあ全體日本馬は口割り抔の暴虐手段を施したりマダ〳〵口の強き馬には殊更に口角を剃刀で切つたりして口の抵抗を減するの方法を施したわコンナ暴虐手段を受けた馬が種馬に成るから遂に子々孫々に遺傳して唇の厚い頸の大きい馬が出來たわ夫れから頸綱と稱して俺等の頸へ綱をかけて馬丁が俺と一所に行進しつゝ時々俺の頸を横の方へウンと引くわ此時鞍上の先生俺の口の強く抵抗する方の韁をウンと引くわ何んとマア亂暴な仕方では無いか今の様に頭ら右とか左とか屈撓法とか柔軟法とか言ふ様な事はカヲ知らぬわ只鞍上の先生は俺の頭を高くして無理無體に追ひ出す丈けよ腰の低下抔言ふ事は知らずして只背中を丸くしてウン〳〵と後と鞍に重る丈けよ俺の口に向つて絶へずナヤン〳〵コツ〳〵當り通しに當る事よ調口法抔言ふ事は絶へて無いわマダ〳〵俺の足へ藥沓を括り附けたり拍子木を縛つたりして前足を上げさせるとか後足を開かせるとか言ふのよ丸るで俺等動物の生理學や構造學抔言ふ事は夢にも御存し無いのよ鳥渡柔軟法の一端とでも見るべきものは退りと稱して僅かに退却する事と折り切りと稱して右と左りへ交互に引き廻す丈けよ偶々兩弧とか言ふて右左交互の卷乘りを遣るが夫れも常歩丈けよ常歩でなければ例の側對歩だから出來ぬのよ夫からマダ〳〵割り竹けで後とから馬丁が追ふて來る事もあるわ丸るで俺等あ血の池郡針山村の産馬とでも言ひそをな境遇さ夫から乘り終つて慨

へ歸ると高く兩口に張り附けられてさお負けに前足に土俵を踏ませ
れて呼ひ綱と稱して俺の背中から前足の間を通して綱をかけて俺の
背骨の撓む樣に前の方へ引かるゝわ壓制々縛茲に至つて極まれりと
言ふべしだね彼れ人間は俺の心は如何なるものかを絶へて知らぬよ
日本馬を強情なり猛惡なりと言ふが夫れは果して誰れがしたので
あろかフ、ウ

(八)民間　種馬號

民間種馬號曰く俺あ骨格が善いと言ふので撰ばれて種馬となつたは
宜いが全體俺あ俺の任務が分らぬわ只俺の樣な骨格の馬さへ出來れ

は夫れで宜いと言ふのか幾ら骨格が善くても藝能が無くては實用に
成らぬわ骨格の遺傳丈けで藝能の遺傳する事は御存じ無いか知らん
只俺に喰はせて遊ばせて置く丈けでは俺あ何の技倆も發達しないわ
骨格や衛生法抔になると書物と頭引で喋々理屈を言ふ奴も多い樣だ
が乘御法や取扱法と成ると書物計りで行かぬ實際が大部分だからグ
ウの音も出ないわ只並み一ト通りのお定まり文句でお茶を濁すのの
よ俺等此通り調教不足否な無教育で而かも運動不足で夫れで善い兒
を設けよとの御注文はァァ何んと言ふ囈言であろふぞ犬だつて無教
育の野犬と來たら泥棒も吠へぬわ此の無教育の犬の子はどんなに教
育しても獵犬抔には成らぬわ俺等の居た所では俺等を調教する事の

出來る人はカラ居らぬよ夫れを思へば俺等を此通にして置くのも萬更ら無理もないが俺あ聊か殘念だよ俺等の管理をして居た人間は大概皆な食物とか厩舍とか衛生とか言ふ事計りの空論で濟ませて仕舞つて實際と來たら咄しに成らぬわ況して俺等の調教々育と來たらカラ駄目よ元來馬術なるものは余程古くやつた人で無ければ本當に俺等を調教々育して良能を發揮せしむると言ふ事は出來ぬからね夫れで今少し人間の方で勉強して馬術や取扱法抔を研究して貰ひたいわ併し實際は常に俺等の希望と背馳して現在未熟の人が而かも將來も勉強せぬと言ふ始末で其未熟の點は成るべく口先きで胡魔化そふと言ふ量見だから困るわソコデ俺等を養ふ所に向つて適當なる名稱を下して見れば先づ俺等の居喰所とか飼殺場とでも言ふべきかねフヽウ

(九)乘馬　口向號

乘馬口向號曰く俺あ或る馬の稽古場に居たが隨分馬の理屈を喋々する騎手は多いが本當に前足旋回の一法式をたゞ究めた騎手は少くないよ元來信地旋回の如き人工的の運動は先づ以て頸と頭とが高起してソウシテ口向きを輕くしつゝ施行せねば駄目だよ此道理を知らぬ騎手の多いには俺あ閉口だつたよ今若し俺が頭を下げて勒に抵抗しつゝ信地旋回を遣つて見よ其運動は肩が重くて首が低くゝて之れに

伴ひ自然に足の運び方が鈍いよ夫れで是非とも此等の運動間に於て
轡の交互の引弛めと屈撓法とに由て俺の頭を高くし俺の口向きを輕
くして體軀を柔軟にして呉れねば駄目だよ俺が若し旋回中に口に重
れば何時にても直ちに數歩の退却を施行して矯正して呉れゝば宜い
のに此一法だも知らない騎手が多いじやないか是等の方法に由て俺
の動作が前軸でも後軸でも輕く動ける樣に仕込んで呉れてさ而して
又右から左へ左から右へと其左右の移り替りが輕くなれば他日駈歩、
の手前變換抔要求せられても何んの造作も無く出來る譯ではないか
全體物に本末あり事に終始アリデな出來得べき道理と順序に合した
る遣り方でないと俺あ服從が出來ぬよ先つ俺等馬匹が一番苦しむ處

は口向だね騎手閣下も必然其通りで何時も俺等の口向きにお困り召
さるわソコデ一ツ口向きの咄を遣ふかね多くの騎手が馬術書の生嚙
りでな口向を輕くするとか躰軀を柔軟にするとか理屈を言ふがね夫
れは只理屈の爲めに理屈を言ふので頓んと言行一致を缺いて居るわ
抑も口の構造は彼等人間も俺等馬匹も皆是れ同一の構造にしてさ上
顎は固定なれども下顎は遊動する處の構造に成つて居るのよ偖て此
遊動する下顎は幾許くの力らが有るかと問へばだ其特質は實に鴻大、
無邊の力量を備へて居るのよアノ小さな人間でさへ通常手の力らの
及ばぬ所は口で加へて遣る事が多いじやないか彼れ人間の輕業師や
曲藝師抔の中には口の力らの非常に強い奴が有るじやないか大盥を

幾つも重ねて積み上げてさ手でも足でも動かし兼ねる程のものを輕る々々と何の造作もなくアノ小さな下顎の力らで以て喰へ上げるじやないか俺等の下顎は人間の夫れよりも遙かに強いぞ之れを喰ひ締めて飛び出して見よ人間の一二匹引駈て飛ひ歩るく位な事は朝飯前の事さ又頸の力らでもねアノ荷物を頭の上へ置いて行く處の或地方の婦人を見給へ隨分重い物を平氣で載せて行くではないか俺が頸は彼の婦人抔よりモット強いぞ或る騎手が引駈けたら引き曲げろ抔と言ふけれともイサ狂奔と相成つたる曉きドウシテ引曲げる事が出來るものか夫れたから俺あ何はサテ置き先つ俺等の口向きを輕くする事を第一に騎手に要求せねばならぬよ一體全體鞍上に在て死んだ様な石の様な棒の様な働きのない拳でさ而かも韁を杖の代りと思召して俺の口へ強く縋り附いて居られては溜つたものでないよ韁と言ふものは一齊に引き弛め或は右を引弛め左を引弛め交互に引き且つ弛めて其間に俺の下顎の輕く開く様にして呉れねば成らぬよ俺の下顎が引かるゝに從つて輕く開く様に之れに伴ひ項も輕く屈撓する様になれば從つて舌を伸縮して喞を味ふ様にも成るからね此結果に由て口向きも輕くなる譯ではないか夫れに何ぞや己れの拙は棚へ上げ此馬は口が強いだの片口だのと逢ふ人毎に小言ダラ〳〵豈に憤慨せざるを得んやだね「何に夫れならドウすれば宜いと言ふのか」マア諸馬各位聽き給へ今の騎手の様に韁の丈けが拳から俺の口迄一米突半

も有る樣な長い韁でドウするものか而かも騎手の拳は其胸の邊迄高く上がつて丁度神主が神樣へお供物を捧げる樣な手振りよ其高い拳で脚は俺の肩の處迄前の方へ踏み出し背中は丸くして丁度帆船の逆走よお負けに俺の首は垂れて地に着きそをに成つて居るから韁の方向は殆んど垂直に成つて居らあ此有樣で何を咄したとて出來るものか俺あ常に騎手の風采と俺の土喰ひ姿勢と相對照して一ッの滑稽動物を現出しつゝ有らあ此有樣を鏡なり硝子窓になりとも移して見せて遣りたいと思つたわ其人馬の滑稽姿勢が移て見へたら誰れでも愛想が盡きらあ先つ以て騎手の韁が其長さを半はに減じて俺の首が上つて隨つて韁の方向が垂直より變じて水平と成り得るに至らざれは理屈も何も有たものでないよ夫から引弛めとか脚の使用とか言ふても歳月を重ねて練れて磨がけた結果で無ければ不可んよ理屈計り聽き嚙りの奴は只々お呪の樣な似て非なる事計り仕て胡魔化もて居るのよ斯んな人の多い中は何時迄も俺等の憤慨は息まぬよフゝゥ

(十)乘馬　閲覽號

乘馬閲覽號曰く俺あ或る時の馬術に偉いお方の前で運動した事が在つたがね俺あ其場合俄かに姿勢や歩法を改める譯にも行かずさ又鞍上の騎手殿も頓と俺に姿勢歩法を優美にする樣な操作を仕て呉れず石の樣に成つて凝り固まつて御座る事よ是れと言ふのも平日は大概

時間さへ經過は親方の吹奏するピリ〳〵の一笛にてサッサと止めて歸る癖せにさサア閲覽の前日となると下稽古と唱へて苛酷く俺等を乘り廻すのよソウシテ此馬は不可ん彼の馬は除けと八釜しい事よ夫から愈々閲覽の時と成ると今言ふた通りでな俺も平日の無教育を發表して首を垂れ喞に重り肩に重りつゝ歩るく事よ騎手殿も石部金吉とでも言ひそをな風采でな殆んど化石にでも成らん計りに凝固まつてた乘りになるわ併し俺あ甚だ不優等な馬匹で有つたが爲めに幸いに先頭第一の難局に當らなかつたよ縱隊の眞中の邊に居て前馬の放屁を嗅ぎつゝ行進したよ偶々號令の有る各個卷乘位は豈敢て騎手殿の操作を待たんやでね號令さへ聞けば他の同輩と共に少々卷乘りの

直徑を胡蒐化しつゝ捷路を歩るきつゝ圓形を畫くさ定めて騎手殿は俺に感謝の意を表したで有ろをよ斯う言ふ工合に約四十分も運動したよ其際偉いお方は何を言ふかと思つたら騎手の姿勢がとか着眼點がとか距離が悪いとか間隔がドウだとか言ふ處の小言のみでな俺等馬匹の爲めに其姿勢や歩法や調教上の注意抔に至つては絶へて一言の耳にする處勿りしたね何せ人間は俺等の口向きを輕くし乘り善くする處の方法に着眼し專攻しないで有ろをかソウすれば距離も間隔も人間の姿勢も自由に氣樂に取れる譯では有るまいか幾ら人間計り鞍の上で姿勢を正しくしても俺等馬匹の姿勢を正しくして吳れねば駄目な咄じやないか果して人間計り姿勢を正しくして鞍上に在つて

可なるものとせば是れ恐らくは馬術にあらずして却て人術とでも言ふを適當とする樣な譯では有るまいか余り言ふと人間樣の貴意の觸れるから此位にて今少し閲覽の實際を咄さう

サアソコデ馬場運動が終ると今度は直線行進にて約三四百米突前方に有る處の目標に向つて伸暢駈歩との御註文が來たではないか親方殿初め騎手殿の御奴つ等皆な妙な顏附きでな聊か靑くお成り遊ばしたよ先つ以て右へ準へ番號とか何んとか言へてね鹿爪らしく整列させた迄は宜かつたがねサア行けと言はれた處の第一のイの一番は忽ち離列を嫌ふて後と退りさ打つても蹴つてもソリヤ平生教へて無いもんだから應い夫れと急場の間に合はぬさ其醜體と言ふたら實に見物だつたね親方先生仕方が無いから其次ぎと令して第二の俺等同朋に歩駈を命じたよスルト其同朋君も同しく平日絶へて夫れ等の事に馴れて居らぬ馬でね且つ其上に其同朋君はね片口ちの骨頂と來て居るわ夫れだから駈け出すや否や右口へウンと引掛けて頭を左にして左りへ左りへと次第に大弧形を畫いて遂に列の後ろの方へ歸つて來たよ是れが若し敵前でゞも在つたなら那須の與市の夫れと反對に喝采を博したろをよ今度は左口ちの强い馬で右の方へ大輪乘りを遣つてさトウ〳〵厩迄引駈けて歸つて仕舞つたよサア其次ぎが俺れの番と成つたよ俺あ性來肩の利かぬ癖せに韁を長くして口に重らせて騎手の手と俺の口とで引張り合ひの力ら競べで仕上げられた處の俺樣

で有るから轡は垂直に上下の方向を成して居ると言ふ有様よソコデ矢庭に駈け出すと間もなく躓いたよ俺が躓くと俺がマダ膝も折らぬ先きに騎手の奴め前鞍に重つて俺を壓し到して置いて尙ほ且つ脆くも御落ち遊ばしたよ俺あ此機に乘して獨りで飛んで見たが余り詰らぬからセツハア厩へ歸るべイと一目散に己が厩へ向つて己が馬房に駈け込んだよ夫れで俺あ其後の事は知らぬが後から聽けば矢張り騎手の姿勢が悪いから落ちたとかアンナ事じや不可んからモツト勉强せよとか何んとか言つたげな此の言ひ種では百年河清を待つの夫れに等したな何せ俺等の片口や凝固を直して柔軟輕快にする處の方術を講じないたろふか併し知らぬと有れは仕方がない知らぬ神には罰當らずで無罪放免かな

其次は障碍飛越の番と相成つたよ障碍飛越場の或場所に横隊に整列したよサア例の如く何番出よと前進を命せられたよスルト又例の如く離列を嫌ふ事を始めたよ第二も第三も皆な後と退りして出發を肯んじないよ騎手殿は幾らお焦慮り遊ばしても彼等の拍車は蚊の刺す計りも利かぬよ元來俺等あ群を成して居れば俺等の天性として其群を離るゝ事は嫌やよ其俺等に對して平日の演習間未だ嘗て離列に馴す事杯は敎へずして置いてイザと言ふ場合に御註文通り素直に活潑に出て行けとはソリヤ無理だよ夫れで其結果は覿面大事の場合に現はれたよ揚げ句の果ては徒歩の助手をして鞭で打たすやら口を取つ

て引き出させるやら大騒きして駈け出させたよ俺も仕方が無いから駈け出しては見たが又堀根や横木抔は飛んでも見たが其次きに濠が見へたよ俺等元來勇氣な樣でも亦た戒心と恐怖の念の深いのは俺等の天性だから忽ち濠に喫驚して横に切れたよスルト親方先生イケナイ〳〵今一度遣り直せと言ふではないか騎手殿は心配しつゝ再ひ俺を駈け出させたよ俺あ前の經驗が有るもんだから更に再ひ見事に横に切れて遣つたよッア今度は今一度來れの號令の下に濠の兩側に長鞭を持つた處の助手を置いて右にも左にも切れぬ樣にして俺を追ひ出したと思召せ俺あ最早三十六計盡くると雖も事茲に至つて降參的飛越を決行するは聊か以て心に快しとせざる處ありでね迅速猛烈に駈け出しつゝ濠の間際に至つて電光を欺むく急遽の駐立を遣つたよお氣の毒なるは騎手殿閣下で兩耳を越へて眞逆樣に濠の中へ物の見事に御落ち遊ばしたよ夫れで兎も角不始末千万ながら障碍飛越も濟んだが其批評が面白い要するに馬の自由ならざるは騎手の馬術未熟なるが故なり姿勢の惡しきが故なり馬術熟練にして騎坐堅固ならば如何なる馬匹と雖ども操縱自在ならざるは無しと何んだ幾ら姿勢が善くても騎坐が堅固でも俺等馬匹を敎育せずしてドウシテ自在に操縱が出來るものか或る碩學者が即席の文章も實際を叩けば學者其人の机の引き出しには數十葉の草案が在つたと言ふではないか蒔かぬ種は生へぬ因あれば果ありでね幾ら理屈を言ふても俺等馬匹を敎育

せぬ限りは好結果を得る道理が無いよ此道理が何せ人間に分らぬだろふか蓋し分つては居るが俺等を敎へる隙が無いだろふか否な々々隙が無いではない隙が有つても俺等抔仕込んで隙潰しを遣つて居ると人のお受けが宜しくないからだろふよ夫よりも何々事務を所理するとか何んとか稱して寧ろ閑居とて不善を成しつゝ有る方が却てボロが出なくて御意に叶ふからだろよフ、ゝゥ

(十一)乘馬　振り落し號

乘馬振り落し號曰く俺あ閲覽君の言ふ如き障碍場の横切れ方法は疾くの昔から遣つて居たよ元來俺あ障碍を飛ぶ時騎手の奴めが俺の口を引く事が大嫌ひでな俺が飛ぶ時韁を弛めて呉れんければ頸を伸ばして飛ふ事が出來ない道理では無いか此道理を無視し韁を以て彼れ騎手の墜落防禦の唯一の道具として居るから俺あ爲めに横木に足を打つ附けたり濠に落ち込んだりしたのよ偶々俺が躓きでもすると騎手の奴め俺を引き起す處の動作は無くして上から俺を壓し到すのは先刻君の言ふた通りよ俺あ最早癖に障つて溜らぬから一つの窮策として横切れ振り落しの妙術を始めたよ見事目的通り騎手の奴つめを投げ落せば決して其場にグズ〳〵せずして宜しく迅速猛烈に逃げ出すべしだな而して厩に向つて逃げ歸るべしだな然りと雖ども未だ俄かに馬房に入るは策の得たるものにあらずでね必ずや障碍飛越の終

る迄放馬と成つて厩外の一隅に青草を喰つて何喰はぬ顔して遊んで居るべしだな然らざれば或は懼る更に再び障碍場に再勤せしめられん事だなフ、ウ

(十二)乘馬　放馬號

乘馬放馬號曰く俺あ諸馬各位の言はる、如き方略よりも更に數層の妙術を心得て居たよ所謂遠き慮り無きものはでね俺あ最初鞍置の時から早く既に逃げ出しの方法を遣つたよ先づ鞍置合圖で騎手の奴等がゴタ〳〵ガヤ〳〵厩舍内へお這入り遊ばすと思召せ此の時例の無頓着無造作ぢ俺に裝勒する際に於てさ機會あれば宜しく適宜に振り放して厩外に逃げ出すべしだね然る時は俺あ裸の坊主馬と來て居るから彼れ騎手の奴等は容易に俺を捕虜となす事が出來ぬと言ふ譯さ綱や棒杯で追ひ廻はしたとて甘く逃ぐれば大概運動時間は經過するよ其間乃公自から適宜に青草を喰つて適宜に逍遙運動をなし晝飼時分に至れば乃公自ら馬房に歸るよ何んと妙策ではないかフ、ウ

(十三)乘馬　咽と締め號

乘馬咽と締め號曰く俺あ夫れよりも更に甚だしい事を遣つたよ君等の如く既に相手を求めて相爭ふは愚だと思つてね俺あ其對手の未だ來らざる以前朝の飼料を喰ひ終ると同時に諸種の方法を以て首を捻

り厩頭絡を脱して飛ひ出したよ番人先生此際一向平氣でね例の通り藁の上に御休足と來て居るからね俺が首を捻りつゝ有る事抔は更に御存しないわサア俺が飛ひ出した曉つき追つ駈けてもソリヤ後との祭りさ併し俺あ其後ちウント頤紐を締められてな苦るしい々々々殆んど吸呼が止る樣な御所置を蒙つたよサア斯うなると時々刻々苦痛に苦痛を重さね苦策に苦策を按じてさ辛苦經營の結果遂に此の緊縮なる頤紐を脱却するの妙術を習練し得たよ彼の罪人の巧みに手錠を脱するが如くさ事態斯の如きに至つては番人先生も最早俺れ一匹を持て餘したよ或る日の事偉いお方の御巡視が在つてね其際俺の放馬術に巧みなる事が報告に上ぼつたよスルト偉いお方は俺の馬房内に入り俺の縛られ按排を見てさユリヤ不可ん斯う緊縮に咽喉を締めて溜るものか貴樣番人でもケ樣の苦境に陷れば如何なる動作を取てするも此苦境を脱せんとするの一念は常に腦裡に湧き出づるならん此馬匹の放馬となるに妙術を得たるは決して彼れの故意にあらず彼れ自らの正當防衛である早く此頤紐を緩めよと來たわスルト番人先生曰くさソリヤ大變直く逃げ出し舛よと偉い人曰く何あに予に方法あり誰れか一人此馬房後に在て鞭を持つて監視せよ若し此馬匹が首を捻り初めたら直ちに音聲にて叱かれ尙ほ聽かざれば鞭撻せよと斯うなると俺も至つて氣樂に呼吸も出來る樣に成つたから余り逃げ出しの工風もせなんだがね併し既に久しき性癖と成つて居るから折々

は首を捻つたよ思はず知らず捻つたよスルト監視先生忽ち叱聲一番鞭の御見舞を喰ふと言ふ始末でな日を經るに從ひトウ〳〵逃げ出して放馬と成る事を止めたよフ、ウ

(十四)放馬　難捕號

放馬難捕號曰く俺も機會あれば放馬と成つて厩外を逃け歩るいたよ俺あ彼れ騎手等が俺を捕へる方法が慘酷で耐へ切れなかつたよ竹や棒で追ひ廻し綱で取り卷いてクル〳〵卷きに卷き上げてさお負けにウント鼻面らを捕へて呼吸も何にも出來ぬ樣にするか又は舌を引つこ抜いて鷲攫みに攫んで俺を連れ行くと言ふ始末よ試みに人間の奴等でも鼻や舌を捕へて連れ行かれて見よ一歩も歩るけた始末じや無かろふじやないか馬の疼さは三年でも辛抱すると言ふ樣な風で餘り無情な取扱をするのみならず厩へ入れた其後にさ貴樣は全體好く放馬すると言つて洗轡の頭絡を振り廻はして笄轡で打たれたよ俺の臀部に穴が明いたよ血が出たよ然るに其騎手の奴め知らぬ顏の半兵衛で其儘にして行つて仕舞つたよ數日を經て親方や俺等のお醫者樣が俺の臀部の疵を見附けてな番人の奴等に聽いたよ如何なる負傷かと聽いたよ番人先生皆々異口同音に存ぜぬ知らぬの一天張りよ茲に於てお醫者樣は大方た嬢藥の中に何にか在つたろふ位の事で藥を附けて呉れたよ俺あ其傷が今に歴然として凹形を成して殘つて居らあ

俺あ其後も屢々放馬と成つて逃げ歩るいたよ騎手の奴等トウ〳〵俺が巧みに綱に卷かれぬ樣に逃げるから遂に靑草を持て來て俺を呼び始めたよ併し俺が其靑草を喰ひに行くと直ちに例の手段で俺の鼻面らや舌杯を捕へよふとするではないか俺あモウ彼の手段には懲り〻〻〻して居るからドッコイ其手は喰はぬと靑草丈け喰つてクルリと廻つてヒョコ〳〵と首を振つて逃げて遣つたよ尙ほ追つ駈けて來れば横蹴りに一ト蹴り蹴つて遣つたよ騎手の奴等俺が其手に乘らぬ苦し紛れに今度は有り丈けの智慧袋の積りで大きな叺を持つて來てな其中へ食物を入れて俺に喰はせて置いてさ突然俺の頭へ其叺をヲッ被せたよサア俺あ逃げ樣と思つたが眼が見へ無いじやないか其中俺の頸に繩をかける一人は俺の背中に飛ひ乘つて耳を捕へる口角を取る又一人は前足を上げて動けぬ樣にすると來て大騷ぎして遂に俺あ捕虜となつたよ

夫から段々と俺等の仲間が多く成てな或る時杯は厩外一面放馬の競馬場見た樣に右往左往に駈け廻る事よ斯う成ると俺等皆な意氣軒昂鬣毛尾毛を振り翳し四肢中空を蹴つて蹄の地上に印するを認めぬと言ふ形容よ若し馬券でも賣つたら嘸ぞ儲けたろうふと思ふたよソコデ仕方が無いから或る人の妙計で放れる俺等を厩から出さぬ樣に厩の出口や街路に幾筋と無く所々方々へ綱を張つたよマダ〳〵馬房の後ろへも綱を張つたよ其形容は恰も蛛の巣の樣なものよ俺等は最早

四足を二倍して八足となり蛛となるに非されば此防禦綱を奈何せんやと恰も旅順の鐵條綱の夫れと同樣だ番人先生是れで安心と來たから溜らない一切巡回巡視杯はお廢しでな終始寐轉んで小説本を讀む讀み飽れば高鼾と言ふ始末さ頓と俺等の糞尿の掃除杯は仕て呉れぬと言ふ不健康極まる狀態に遭遇したよ是れと言ふのも天の成せる禍ひでは無い俺等自から招いた處の禍ひだから仕方がないが外の從順な諸馬各位は大迷惑よ

或る日の事偉いお方が巡視に來たよ俺等の厩の鐵條綱否な防禦綱を見てコリヤ何んだ丁度蛛の巣の樣ではないか一朝火災の如き非常の場合が有つたらドウするか抑も斯の如き有樣にせねば馬を繫蓄し能はずとせば有事の日野外に於て如何にするか「何に放馬が多い放れたら捕まらぬと」否な々々決して左樣の事は無い思ふに汝等放馬あれば無暗に追ひ廻し或る時は腹立ち紛れに木や石を投げ附け兼ねぬものと見へる偶々捕へ得たる時も鼻面らを緊く握つて呼吸を止め或は耳や舌を攫んで馬に苦痛を與へ全く馬をして再び人に接近するを嫌ふ如く亂暴なる事を仕たに相違ない爾今宜しく此綱を徹去し放るゝ馬あれば監視を嚴にし苟くも首を捻り頭絡を脱せんとする動作あれば直ちに叱正し尚ほ聽かざれば鞭撻すべし此實行を確實にせば放馬は一頭も有る事なし予は訓諭す此實行を確實にする爲め苟くも汝等の懈怠を寛恕せず若し又愈々放馬と成りし時は綱杯持つて追ひ廻

す事勿かれ宜しく食物を以て呼寄せ愛撫を與へて靜かに連れ行くへし決して鼻面を捕へ耳や舌を摑む可らず「何に青草丈け喰つて逃げると」夫れは汝等が早急に手を出し耳や鼻を摑んで懲りさせるから夫よりも汝自身の體を以て馬に寄り添ふ如くして安心せしめ而る後ち愛撫して捕ふべし去り乍ら數回汝等の亂暴手段に懲りたる馬匹は容易に捕ふる事能はざるべし此等の馬匹に對しては別に箱馬場内に於て調教すべし即ち放馬の彼れ自身に汝等に接近し來る如く調教すべし凡そ教へざる事は汝等騎手と雖ども實行し得るものにあらず況んや馬匹に於てをやだ以上の訓示に因り俺等馬匹の後方には絶へず番人が巡廻し若しも首を捻つて頭絡を脱せんとすれば忽ち叱かれ尚ほ聽かざれば鞭で打たれるから俺あモウ脱け出す事は止めたよ夫から又箱馬場に連れ行かれ最初は調馬索で以て引寄せては食物を吳れ引寄せては食物を吳れるもんだから俺あ何時しか騎手の方へ行き度く成つてな早くホーヲと言つて呼んで貰ひたく成つたよソウすると今度は俺の調馬索を解いて頭絡のみ附けて放したよ俺あ喜んで飛んで跳ねて居ると騎手殿はホーホーとお言ひ遊ばすではないかハヽア食物を吳れるなと思つて駈けて行つたよ併し耳や鼻尖きが怖いからね聊か以てビク〳〵もので近寄つて行くと存外々々騎手先生容易に手を出さぬではないか頻りに食物を吳れるではないか成る程此分なれば別段注意を拂はなくても宜いかなと思つたよ次第々々に

近寄つて遂に騎手殿の御側に密着したよスルト騎手先生俺の頸を撫で擦りつゝホーホーと言つて慰めて呉れるのよウコデ俺も逃げずとも宜いと言ふ事を知つたよ俺あ其時次の如く言ひたかつたね騎手君よ君にして早く夙とに此方法を知つて俺の新馬時代より此等の教育を施して呉れたならば俺あ何を苦んで放馬となり泥塗れ汗塗れと成つて既外を駈け廻らんやたね騎手君も亦た何を苦んで綱や棒杯を持つて俺等を追つ駈け廻わさんやたろふとフ、ウ

(十五)乘馬　角兵衛號

乘馬角兵衛號曰く俺あ東北の或る所から牽出されて來て何處へ行く事かと思つたら籤引きとかで俺の且那が極るとの事よ俺あ幸ひに偉いお方の御乘用に成つたよソコデ俺あ定めて高等教育を受けた處の上手な人に調教々育を受ける事と思つて心竊かに欣喜に堪へない次第で有つたよ而して牽かれて其人の宅へ行くと間も無く或る處の厩へ送られたよハテナと思ひつゝ在と中に俺の仕込みは御主人其人に非らずして其下役殿が仕込むとの事よ夫れを聽て俺も聊か氣拔けがしたよ夫から如何な仕込を受けるかと思つたら只箱馬場内をグルゝ廻る丈けの事よ夫れも其筈御主人先生出勤退出の外別に馬場運動抔はせぬとの事よ此樣な始末で俺を戰場の活動武器抔と唱へる事が出來るものかと思ふたよ其下役殿も一向俺等の技倆の發達する樣

な仕込みを仕て呉れぬのみか旋回の一ッも碌々教へないで數月を經過したよソコデ俺あ口は輕るく成るではなし之に伴ひ足も見事に運ぶ事も出來ないわ去り乍ら此結果として鞍は平らなわ御主人先生先つ第一俺の鞍の平らなのに御滿足よ次に俺の口の強いのは却て縋り力らが有て宜いとの事よ是でもお宅の玄關から某所の入口に横附けにする迄の渡船的運動は確かだつたよ夫れで俺あ儀式的乘御の時や實用的野外の馳驅抔はドウするか心配して居たら其時は俺を打捨て置いて外の馬と取り代へてお乘り遊ばす事よイサ鎌倉と言ふ場合には俺あお拂ひ箱よ此樣な始末で長の歳月御奉公は仕たもの丶今に旋回も横歩も碌玉出來ぬわ全體俺あ下級未熟者の馬は上級の熟練者が仕込んで渡すものかと思つたら實際反對よ或る時某下級者の言ふを聽けばアノ親方の馬も予が仕込んだ馬だがアノ親方の乘り方では駄目だ抔と言つて居らあ俺あ思ふたよ甚だしい不敬極まる奴だと思ふたよ併し實際を見れば或は然らんとの感念もなき能はずだね果して然らば恰も是れ角兵衛獅子的で逆立の姿で有るわ去り乍ら事の實際を討究せば此の角兵衛獅子の逆立を以て却て推理に合するかも知れぬて何んとなれば上級者は只途上の往復のみとすれば夫れは殆んど馬術練習の範圍内へは算へ難きも下級者の新馬仕込をなすものと成れば一日に二三頭は乘御するだろふよシテ見れは一日の中に下級者は上級者よりも二三倍の練習を成す譯さ延て一ヶ年の結果を推せば

角兵衛獅子を以て却つて適當の結果と成す事敢て怪むに足ずてはな
いかフ、ウ

(十六)乘馬　薄墨號

乘馬薄墨號曰く俺あ或る偉いお方の御注文でな或る處から撰抜せら
れて帝都に出たよ夫からマア大底君等の言ふ樣な調教の始末で調馬
手に乘り廻はされたよ或る時は馬丁が調馬手の代理もするさ全體俺
あ偉いお方の宅には歴々の調馬手が居るかと思つたら大當て違いよ
俺を乘る處の調手先生タツタ一人で數十頭の馬を乘との事よ委敷く
聽けば一人前五十錢宛の報酬でさ馬鹿々々しい十人在つても一ヶ月
五圓だコンナ報酬で碌玉な調馬手が雇はるゝものか俺が充分に調教
して貰ふには少くも一時餘りは掛かるよ十人の馬を乘るには十二三
時間も掛らあ何んは調馬手だつて飯も喰はずに乘れるものか夫れで
俺あ三日目に一回位い乘つて貰ふたわ斯んな事で儀式や實用の際立
派に歩るて呉れとの御注文はマア何んと言ふ妄想だろふか歐洲抔で
は偉い人になると五十圓も百圓も一人で出して調馬手を抱へるとの
事であるが俺等の國では何せ斯う廉價だろふ調馬手の給料でもマア
ザツト百倍若くは二百倍の違いだねソウすれば調馬の結果が百分一
の成蹟を上くれば宜いと言ふのか夫れでは迚も乘用には適すまい此
の適せぬものをして強いて適せしめんとするので度々毎々奇觀醜體

を演するではないか今少しく且那が奮發して吳れて毎日良調馬手の仕込みを受けさせて吳れたなれば池月磨墨と迄は參らずとも朧月か薄墨位には成つたと思ふよフ、ウ

(十七)乘馬　受負號

乘馬受負號曰く俺の且那は或る所へ勤める方でな俺に乘るのは只其往復の途中のみで偶々廻り路でもすれば親戚や朋友のお宅でも訪はるゝ丈けの事よ俺あ何時も少々運動不足よ俺の任務は洵とに氣樂な代りに外に聊か困難な事が有つたよ夫れは飼料の始末さ且那は月々飼料を馬丁に渡して請負仕事にするからよソコデ馬丁は俺に吳れる四舛の麥は二舛に減して夫れで秣などは殆んど吳れぬと言ふ始末よ俺の飼料の半分は馬丁夫婦と其子供等の腹の中へ這入らあマア何んと馬を莫迦にした咄では無いか俺あ時々空腹に成つてトン〳〵前搔きして催促すると此蓄生の定文句で打ち敲かるゝわ其揚げ句には水勅を喰めて高く張り附けられるわサア斯う成ると蠅を追ふにも首の自由は利かず糞を垂れても取つては吳れず後足の蹄裏は日から一日糞塡めよお負けに晝間は櫪板上に糞抔敷て吳れぬから放尿したくも夕方寢藁の入る迄耐へて居ると言ふ始末よ馬丁が用事の多い時には折々晝の飼を忘れられる事もあるよ余處から見ると樂な樣でも其内幕は決して然らずだよ俺あ却つて野外に行くとか戰爭に出るとかが

宜いよ何せなれば馬丁の奴つめが飼料を胡魔化さぬからよ併し戦爭にでも出ると馬丁先生聊か錢が出來るから酒に醉つ拂つて夜の飼をお忘れ召さるには困るよ其代り朝早く出發間際に昨夜の分も一所に俺に喰へと言ふのにも亦た困るよソウ無暗に一遍に喰へるものでないわ胃袋の干滿甚だ以て不規則千万でなソコデ朝出發するや否や直ちに駈歩でも追はれて見よ肝心要めの場合に疝痛が起らあサア藪で腹を擦すれ牽運動せよ水を呑ませよ青草持て來い抔と大騒ぎしたとてソリヤ後の祭りよ暫時の間俺あ御奉公中止よ是だから余りお心善しの旦那とお心惡るの馬丁と來たら實に遣り切れないよ

夫から俺あ人間の喧嘩とか戰爭とか言ふ事に加擔する爲め或る港から船に乘る時よ忘れもせぬアノ波止場で深い端艇に乘る時よ俺が恐る〻々々怖は〻々々ながら端艇の側迄行くとソリヤ行けソリヤ行けと餘り烈しく牽込まれたから俺あ船の中へ倒れて膝を剝いたよ夫から戰慄ものの端艇に搖られつゝ本船の側迄行くと今度は俺の腹へ馬絡と稱する畚の樣なものを當てるじやないか俺あさ夫れが腹へ當ると何だか怖くて飛び上つたよ俺あ其拍子に海へ落ちたよ又元の海岸へ泳ぎ着いたよ夫から又再び端艇で送られたよ又馬絡を掛けられて海へ落ちる事かと思つて居たら今度はソコニ偉い人が居つてよ頻りに世話を燒て居るわソウシテ偉い人曰くさ此馬は今落ちた馬じや今度は氣を着けろ全體汝等イキナリ馬絡を馬の腹へ當ると言ふ事が有もの

か馬と言ふものはな平生鞍褥を置く事に慣れて居るから其馬絡も一旦背中へ鞍褥を置く通りに置けソウシテ馬を沈静させて置いて其馬絡の釣縄を下の方で合せて静かにクルリと腹の方へ廻せソウすれば馬は驚く事はないと言ふわ俺も此時成る程々々と思つたね夫れで俺も首尾能く船の中へ釣り込まれたよ夫から船の中の馬房は窮屈だよ随分疲労するよ併し善い旦那と善い馬丁を持た馬は仕合だよ時々見舞つて貰ふて菓子や麺麭抔喰はされて糞便を掃除して呉れて釣帯も適宜に紳縮して呉れてさ俺あ船の中で慰めて貰ふたのは何より嬉しかつたよ俺の旦那はお心善しで従つてお情けも深いわ船の中でも俺の前に來てな予が愛馬よ窮屈だろふな暫らく辛抱せよ上陸したら充分に養つて遣るぞと言ふて呉れたよ俺あ此時涙がこぼれたよ此御恩は屹度戰場で報じよふと思つたよケ様に慰めて呉れゝば少々船が揺れても多く疲労せぬよ之れに反し無情な旦那と馬丁と來たら最期よ航海數日絶て一回も御見舞なしでな後足は終始糞塗れ小便塗れで釣帯が堅た過ぎて船の動揺の爲め俺等の足が踏み締められぬので馬房の横木へ打ち附けられ通しでも一切萬事お構ひ無しよ其癖せ旦那は甲板上で退屈極めて居る癖せにさケ様な旦那は敵前で抛り投げて遣つても文句は言へないだろふよ夫れだから平生俺等を愛護して置いてイザ危急と言ふ場合に俺の忠勤に訴へなければ成らぬよ鳴る時計り様を附ける處の雷の夫れと一般では不可んよ士は己れを知るも

の丶爲めに死すと言ふ事が有るが矢張り俺等馬匹も俺れ樣を知るも
の丶爲めに死すると言ふ事を彼れ人間に敎へたいわフ丶ウ

(十八)乘馬　ソーダロ號

乘馬ソーダロ號曰く俺あ或る立派なお醫者樣の馬で在つたよ全體お醫者樣の連中は餘り馬に乘れる人は稀れよ夫れも無理は無い馬術の敎育を受けぬからよ特に俺の旦那と來たらカラ駄目よ每朝馬丁が玄關先きへ俺を牽て行つて待つて居る時俺が少しく勇氣よき素振りをして居るとな旦那殿は容易に俺にお乘りに成らぬよ何んと言ふかと思へばコリヤ馬丁此馬は餘程張つちよるぞ斯んな馬を牽て來て溜るものかアナへ連れて行つてドウカ仕て來いと言ふじやないかドウかせよとて馬丁にドウする術が有るものかソコデ馬丁は俺を門外へ牽出してヒラリと飛び乘りソコラあたりを乘り廻すわソウシテ俺が汗の出た時分に成ると又玄關の處へ連れて行く事よ中々此馬丁一を聽て十を知る先生さね今度は俺も少々運動した上げ句で有るから沈靜を守つて居ると旦那殿も是で宜い々々と言はれてお口にシガレットで悠々として乘つて出られるわ其風采は唐畫の山水蜀の棧道でも步るいて居りそうな人馬の姿勢よ寫眞にでも取つたらと思つた事も有つたよ併し流石お醫者樣でね旅行や野外抔に出ると中々俺に對して注意して呉れたよソレ麥の中へ鹽を入れてやれソレ味噌汁を拵へて

やれ胡蘿蔔をやれ芋を喰はせろ抔と言つてね能く氣を附けて呉れて菓子抔は御手づから賜はつたよ併し俺が御馳走の結果で勢力を出したが最期旦那殿は容易にお乘りにならぬわ又例の馬丁にドウカ仕て來いと來るわ是には俺も聊か以て困つたよ或る日の事馬丁は俺を下た乘りして居る中俺が跛行に成つたよ俺が此跛行は前の兩足とも蹄の内部に疼みを感したから隨つて肩の運動の自由を妨げられたよソコデ旦那の言ひ附けで或る馬のお醫者の處へ診斷に行つたよスルト馬醫者先生俺をアチコチと牽廻はさせて曰くさハヽア此馬は右前足が疼いなと言つたわスルト馬丁はイヱ旦那左ですと言ふわ馬醫者先生拔らぬ顏てソーダロ〳〵と言つて又暫く牽廻して馬丁がイヤ右が疼い樣ですと言ふと又も先生ソーダロ〳〵と言ふわ又今度左の樣ですと言ふと矢張りソーダロ〳〵と言ふわ何の事やら分らぬ始末で馬丁等は此先生を稱してソーダロ先生と呼んだよ此ソーダロ先生遂に判斷に苦しんで俺の肩へ沃度丁幾を塗つたよ何の事だ俺あ蹄の内部が疼いのに肩へ沃度を塗るとは マア何んと言ふ方角違ひたろをと思つたよ願くは其沃度を蹄又に塗るか又は四肢の冷却法でも遣つて貰ひたかつたよ併しソーダロ先生が俺の右左の判斷が附かなかつたのもソリヤ無理もないよ俺あ兩方とも蹄の内部が疼いから右左交互に跛行しつゝ其足を構ふて居たからねフヽヽウ

(十九)乘馬　軍刀號

乘馬軍刀號曰く俺あ新馬の時分軍刀が怖はくて酷い目に逢つたよ夫から色々の癖が出來たよ俺の日那は自分では馴す事は出來ぬと言ふので或る騎手を賴んで馴らして貰ふ事にしたよソコデ其騎手先生ドウして俺を馴すかと思へば鞍を置いて調馬索を着けて其鞍の左側へ大きな軍刀をぶら下げたよ俺あ怖くて々々慄々して居るとサア行け往生さして遣るぞと言つて追ひ始めたよソコデ一ト足歩るけばガチャン二ト足歩るけばガチャンと俺の後足へ軍刀が當るじやないか夫れと同時に俺の横腹に觸れるので迚も辛抱が仕切れぬわ俺あ愈々無宙に成つて一生懸命駈け出したわスルト馬丁も騎手もホーラホーラ抔言つて俺を駐めよふとする其聲抔が聞へるものか人間の三五人引摺り飛ばしたとて此怖さに較ふれは何の事は無いと言ふ勢ひよサア俺も騎虎の勢ひで駐る事もドウする事も出來ぬわ偶々駐ろふと思ふと彼の大きな軍刀が後足へガチャンと來るわ全體俺を追ふて居るのか駐めて居るのか更に分らぬのよ段々惑亂して精神錯亂知覺失喪と言ふ樣な按排よ斯う成ると馬丁も騎手も青く成つて必死となつて俺を駐め樣とする俺あ駐りたくも軍刀が打つ着かるので何時果つべしとも見へざりけりと言ふ有樣よ併し俺の體力にも限りが有るから俺も遂に怖さを耐へて駐つたよ俺あ呼吸切迫今にも絶息しそふなのよ

其場合馬丁や騎手は俺の側へ來て此蓄生强情奴がと言ふでは無いか
强情どころか俺あ恐怖の凝り固まりよ之れに對して强情呼ばゝりは
實に誤診誤判の甚だしきものでは無いか若夫れ疾病或は訴訟等に在
てケ樣の誤診誤判を下さるゝ事が有つたなれば如何であろふか世人
は一人も疾病を治し寃を雪く事の出來る譯で無いわ夫から俺あ人間
と言ふものは酷い事をすると思つたから其後は俺に乘りに來ても成
る丈け動いて乘せぬ樣にする若しも無理遣りに乘られたら成る丈け
騎手の困る樣に其指導に反對した方へ行く夫れでも利かねば板塀や
垣根抔に寄り添ふてドウする事も出來ぬ樣にする事を始めたよソコ
デ俺に乘る人は容易にない樣に成つたから俺あ毎日厩の中で退屈す

らあ食物と運動と相伴ふにあらざれば健康を害すとの確言もあるか
ら俺あ厩の中でグル〳〵廻つたり前搔きしたり騒いだよ騒ぐと馬丁
や旦那が叱りに來らあ其時俺あ血眼剝き出して剛い顏して白眼み附
けてやつたよ其後俺あ癖馬と言ふ名稱の下に主人にも嫌はれ調馬手
抔も容易に俺に乘り能はぬと言ふ始末よ成る日の事俺を引き出しに
來たから何處へ行く事かと思つたら或る老先生の宅へ行つたよソウ
して其處の厩へ預けられたよサア大變又々軍刀附きの調馬索で追ひ
廻はされる事かと思つて心配したよ先生は俺の始末を馬丁に委しく
聽たよソウして點頭たよ先生は其日から翌朝へかけて屢々俺の厩へ
來て其度毎に俺に菓子や青草や種々な食物を呉れる事よ俺あハア存

外優しいお方だわえと思つたよ夫から翌日になると俺に鞍を置き始めるわハテナ又來たなと思ふたよ併し其鞍の置き方は誠に丁寧に靜かに置くのよ夫から洗轡を喰めて俺を兩口に繋いでからね先生自から片手に軍刀を持ち片手に食物を持つて俺の前に來たよソシテ俺の鼻先きで其軍刀をガナヤ〳〵と振つたよ俺あ例の通り怖いからフウーと大きな鼻息をしたよスルト靜かにホーホーと言つて片手に有る食物を吳れるわソウして又軍刀を振つて俺が怖がると直ぐ食物を吳れて慰めて吳れる始末よ段々と操り返さるゝ中に俺あ食物が慾しさに早く軍刀を振つて鳴らして貰つて早く食物を貰ひたくなつたわ次第々々に餘り軍刀が怖くない樣になつたわ俺が怕れぬ樣になると先生は宜しい々々と言つて頻りに俺を可愛がつて吳れたよ夫から其次には俺の鞍の横へ二尺餘りの竹切れを吊り下げたよサアどふするかと思つたら今度は其竹切れを徐ろ々々コツ〳〵と鞭で叩き始めたよ俺あ前の軍刀に懲々して居るからコナと打てばビクとする有樣よ其度毎に食物を吳れて領を撫でゝ吳れて遂に是にも驚かぬ樣に成つたよ夫から斯う言ふ風にして乘馬下馬も厩の中で右からも左からも乘つたり下りたりして其度毎に食物を貰ひ愛撫を受けて教へられたよソコデ俺も靜かに乘せる樣になつたわ併し俺あ此時分鬣毛の中の腎甲の附近に腫物の小さいのが在て夫れで其所の鬣毛を執つて乘り下りせらるゝと疼みを感じてヒリ〳〵として縮み込んだよ先生早くも

此事を知つてねハヽア此所に疼みが有るとて探り始めたよ其所に硬肉が在て腫物であると言ふ事を知つて吳れたよ夫から冷却して直して吳れたよ其後俺あ鬣毛を執られても疼い事はない樣に成つたわ斯んな事は若い騎手には分らぬから困るよ夫から調馬索も仙臺君の言はれし如く温和に仕込んで貰ふてソウして軍刀も初めは釣革を短かく後にはだん〳〵長くと言ふ順序に馴して吳れて若しも俺の後足に當つて俺がビク〳〵すると直く駐めて食物を吳れて慰められるから俺あ後には軍刀が後足へ當つて食物を貰ひたいと思ふ樣に成つて來たわ俺が若し例の板塀抔に寄り添ふ所の癖を出すと逆らはぬ樣にソロ〳〵嘴まし嫌かして塀より離れさせ離るれば直くに愛撫して食物を吳れる或る時は下馬して吳れると言ふ譯さ斯う言ふ風に仕込まれて見れば何分抵抗の餘地がなくして如何なる事にも從はざるを得んやた其後俺あスツカリと諸癖を直して主人の宅へ歸つて大層御主人に悦はれてお蔭で癈馬の不幸を免がれたよフヽウ

(二十)乘馬　乘前號

乘馬乘前號曰く俺あ乘馬の時クル〳〵廻つて容易に人を乘せぬので非常に叱かられた事が有つたよ夫れも騎手君が俺を左樣に動く樣に仕込みつゝあると俺が考へたから仕方がないよ其譯はさ抑も馬術語で愛撫と稱して騎手の爲めに俺等馬匹の動作がお氣に召された其時

に騎手の手掌を以て俺の領頸を輕く敲き擦つて勞はるわソコデ俺あ騎手君の將さに乘馬せんとするに際し俺の鬣毛の而かも殆んど耳の方に近き處を執つてお引き召さるゝから俺あ引寄せらるゝ事と思つて其方へ寄るわスルト騎手先生俺を沈靜すると稱して俺の領頸に向つて愛撫を與へらるゝから俺あ今の動いた動作がお氣に入つて褒められた事と思つたわ無理は無いたろふ夫から俺あ鬣毛を執られさへすれば直く其方へ寄らねば成らぬ事と思つてさ其度毎に鬣毛さへ執らるれば直くに騎手の方へ寄つたわソウすると騎手先生又もや俺を沈靜すると稱して愛撫を以て褒賞せらるわ夫れで俺あ大得意で韁を捌いて乘馬せんとすれば直ちにグル〳〵廻る事が大分上手に成つて

來て遂に習ひ性と成つたよお負けに俺あ少々寸延びと來て居るから小さな騎手は大困りよ併し俺あ動けば愛撫を受けるものと心得て居るから是非乘馬の時には動かねば成らぬものと信して勉めて動いたよ野外抔で火急に乘馬せらるゝ時抔は大騷ぎよ騎手先生至急に乘ろをとする俺がグル〳〵廻る滑り落ちる鞍が廻ると言ふ始末も屢々有つたよ或る時偉いお方が俺の動く處の其實際を見て怒つたよソンナ不行儀な馬を拵へて置いてドウするか何せ乘馬下馬を馴らさぬかと言つたよ俺あ元來馴らされた通り面倒を忍んで勉めてグル〳〵廻つて居るのに何せあんな事を言ふかと思つたよソコデ偉い人が騎手に向つて貴樣の樣な事では不可んダア予に貸せとてイキナリ俺の韁を

執つたよ俺も例の通り動かねば成らぬ事と思つて廻り始めたよスルト反對側即ち不乘側の轡を執つてピシヤリと電光の如く俺の口に當つたよ俺あ驚いたねハテナ其樣な筈は無い何時も此動作で沈靜と稱して愛撫を受け來つて居るのにドウ言ふ譯だろふと思つたよ今度は又轡を捌くから又動くと又更にピシヤリと電光の口當りよ二三遍繰り返されてドウモ合點が行かぬから暫くジッとして考へて居ると俺の頸や臀部を愛撫するからハ、アコリヤ御註文が違ふな今此通り動かずに居つたから褒められたなと思つたよ夫から俺も遂に合點が行て動く事を止めて今度は本當に褒められたよ夫から今一つ乘馬せらるゝ時困難な事が有つたよ夫れは乘馬する時俺の動かぬ用心として無暗に轡を短かく詰める事よ夫れと同時に鐵毛を領頸の眞中邊にて握る事よヶ樣にせらるゝと乘り上かる時騎手の體重の爲め引かれて俺の領の肉が撓むから隨つて不乘側の轡を強く引かれて俺あ殆んど後ろ向きならあ此遣り方では俺等の爲めには實に迷惑たよ俺等が動かぬ事を覺へたら今少し轡を寛やかにしてソウして鐵毛を鬐甲の方へ近く執つて貰ひたかつたよ併し餘り温柔(たとな)しく仕て居ると新騎手の飛乘り稽古馬となるわ此お役目と成ると隨分酷(ひど)いは新騎手の中の不器用な身體の重い奴と來たら飛び上るのか飛ひ下がるのか分らぬ奴があらあ機みを起して飛ひ上るかと思へばソウで無くして機みを起して却つて俺におら下がるのよソコデ遂に俺の鐵毛は拐(ひき)り切られて

仕舞ふのよお負けに前足の膝節の邊は梯子の代用として新騎手の靴尖で踏まれ通しよ何せあんな奴に木馬でなりと預行演習を遣らせ無いで有をか夫れは兎も角愛撫と懲戒とが其當を得ざる時は全く馬をして迷誤に陷らしめ種々の悪癖を誘發すると言ふ事を聽て居るがマア俺の乗馬の時動いた樣なものが其一例かなフ、ウ

(二十一)乗馬　濠州號

乗馬濠州號曰く俺あ遙々濠州から此日本へ賣られて長い間た船で來たから俺あ丸るで骨と皮計りに成つたよソコデ俺あ日本へ着いた時一刻も早く飼料に有り附いて手入をして貰ふて完全な馬房へ這入つて此疲勞を回復したいと思つたけれど日本人はマア俺等の毛色を調へるとかヤレ寸尺だヤレ年齢だヤレ別徴だとか言ふ樣な事計り調べて毎日々々立竦みよ俺等の仲間の中には此上陸の當時一刻も早く手當をして貰はねば忽ち斃死の不幸に陷るものも在つたよマア毛色や寸尺抔の騒ぎじやないわコンナ事は何時でも出來るわ所ろが夫れには一切無頓着で不幸を見た同朋も在つたよ夫から俺等は所々方々へ分配せられてマア八釜しい御訓示の下に飼はれたよ御深切にも濠洲から飼料迄も取り寄せて呉れたよ併し船の中の監理が悪いから俺に與へて呉れても悪い臭いが有てカラ喰へぬのよ夫を喰へ々々と當て飼はれるのには實に閉口參つたよ夫よりも日本の飼料の方が新鮮で

臭氣が無くて余程よかつたよ夫から引運動や何かで段々と俺等も肉附いて來て愈々調教と言ふ事になつたよ其時分俺に鞍を置くにも隨分無法よ何時も無斷で俺の馬房に這入つて打つ附ける樣に鞍を置くわソウして肚帶も片方から計りグイ〳〵締めるわ口を取るにも俺の口角が疼い樣な烈しい取り方をしてソッして喰が前齒へカチ〳〵當る樣な喰め方をする奴もあるわ俺あ日本流の取扱は隨分無法じやなと思つたよ夫から厩内の預行調教も無しに又乘馬前の調馬索も無しにイキナリ俺に乘ると言ふ始末よ元來俺に乘ると言ふなれは先つ以て俺の承諾を求むる處の預行調教が無くては成らぬ譯さ俺あ木馬じや無いよ知覺のある動物だよ夫れに對して一言の斷りも無く否な一回の豫行調教もなくして直ちに乘馬の實行動作を決行せんとす聊か奮激せざるを得んやだソコデ俺あ凜乎たる耳を欹たて鼻息を荒くしたわスルト騎手先生聊か戒心して俺の韁をウンと詰めて例の如く鍛毛を領頸の中程に取つたわサア乘り上ると成ると鐙が短かいから靴尖で俺の腹をウンと抉ぐるわソウして俺の小さな領頸は引かれて撓んで俺の首は韁で引かれて後ろ向きになると言ふ始末よ俺も辛抱が仕切れぬから一と跳ねピンと跳ねて遣つたわスルト騎手先生轉りと落ちたわ何せ俺に厩の中若くは馬場の中で助手を置いて動かぬ樣にして乘馬を馴して呉れぬであろふかソウすれは何も其樣に韁を窮屈に詰める必用は無いわ又乘馬の時鐙が短かくて俺の腹に靴尖が當る

なれば何せ一時乘馬を馴す爲め其鐙革を延ばして吳れぬで有ろをかコンナ注意は藥に仕たくも無いとは情け無い是では迚も充分に服從が出來ぬわ

夫から兎も角無理遣りに俺等を乘つて前進すべく余義なくしたよソコデ俺等の足の踏み切りが快活で從つて鞍が高いから騎手は鐙を無暗に短かくしたよ其有樣は丸で倚子に腰を掛けた按排さ俺が活潑に歩るけば歩るく程騎手は恐怖して前に傾き韁へ啀かと縋がり附くから俺が一と振り頭を振ると忽ち騎手の鼻や口へ當つて血が出ると言ふ騒ぎよ鳥渡一と飛ひ横へでも飛ぶと直く轉りと落ちるわ全體日本人は鼠の樣な鞍の平らな而かも打つても蹴つても感じの無い馬に乘り慣れて居るから俺等の樣な鋭敏な馬には乘れぬわ障碍飛越抔と來たらカラ駄目よ俺の此柔軟な口と頸とに向つてウンと韁を引いてさ騎手御自身の墜落防禦の杖柱と賴まれて溜るものか障碍飛越と來ると落ちるは々々々々俺等の爲めに怪俄した騎手の澤山な計りでなく死んだ騎手もあらあ俺も實際氣の毒で溜らぬけれど騎手の奴つ等が斯う無法で斯う不勉强では仕方がないよ俺あ實際に照して日本では馬匹改良と同時に騎手改良が先決問題だと思ふよフ、、ウ

(二十二)癖馬　鐵槌號

癖馬鐵槌號曰く俺あ大の癖馬で明治以前の其昔し俺の主人は俺を持

て餘まして居つた所ろワト江戸市中に癖馬矯正所とて如何な難癖でも直すと言ふ所が有つて俺あ其處へ矯正に遣られたよ其處にはドンナ上手が居るかと思つて往つて見たらナニ上手でも何んでもない只亂暴に俺を打ち伏せ叩き伏せて往生閉口參らすとの手段のみよ夫れであるから其處は周圍を圍ふて他人には見物を許さぬのよ毎日々々打ち叩き計りで遣つて居ると或る日の事俺の旦那が縞かに板塀の外に來てソット節穴から覗いて居るとも知らず又々俺を引出して亂暴な懲戒を遣り始めたのよ此日は棒や鞭抔では應へぬとて大きな鐵槌を持つて來て打ち始めたよ俺あ全身何處も打たれぬ所は無く惣身腫れ上る始末よ俺の身體は生きて居るか死んで居るか最早俺れ自身に

さへ分らぬと言ふ境遇よ俺も全身打撲で疼痛の境界を超ゆる事數段最早抵抗も何も有つたもので無いわソウすると是れで直つたと言つて俺の宅へ歸されたよソコデ俺の旦那は厚く禮を述て俺を受け取つたよ夫から旦那は鍛冶屋へ行つて大きな鐵槌を誂へて來たよ此れに大きな六尺有余の柄をすけたよ夫れを持つて彼の癖馬矯正所へ遣つてさ是れは聊かながら馬四御調教下され候御禮の印迄にとて其鐵槌を遣つて來たよフ、、ウ

(二十三)種馬　荒火矢號

種馬荒火矢號曰く俺あ本國に在て僚敬を受くる事全く人間以上よ俺

等は天帝の賚ものと唱へられて夫れは々々大事に仕て貰ふのよ人間が飯を喰ふ時にも先づ俺に其お初穂を備へて置かねば喰はぬのよ迚も春日の鹿や八幡樣の鳩の類で無いぞ俺と人間とは一所の家に起き臥しゝて居らあ日本の樣に豚小屋馬小屋抔と唱へて不潔極まる待遇を受けるものとは譯が違ふぞ夫れだから俺も滿腔の熱誠を以て人間に報ひざるを得んでは無いか日本の樣に俺等を酷使し虐待する事を亞剌比亞人に見せたら全く喫驚して氣絶するだろふよ俺の見る處では日本の馬は體格はナト劣等だが本來の性質は左程惡い事はないぞ其證據には田舍からほつと出の馬は大抵皆な從順至極なもの計りよ夫れを人間の奴等があちこちと引摺り廻はしつゝある間に色々の癖を敎へ込むのよ夫から乘り方でも口向や體軀を輕くするでは無くして却つて嘴に縋がつて口向きを重くし從つて體軀を硬くしつゝあるわ迚も日本は人間を改良せねば良馬は出來ぬよ日本でも今少し愛馬心を涵養して俺等馬匹の氣心ろを斟酌して取扱ふて貰ひたいね亞剌比亞人は縱令ひ幾百萬の金を積んでも我が愛馬と交換する樣な事は仕ないわ夫れだから亞剌比亞の最優等馬は他の國へ出て來ぬわ或る時佛蘭西の馬匹購買委員が來てよ亞剌比亞で一番二番を爭ふ處の馬匹を買はんとして其馬主の前に澤山に金を積んで賣り渡を迫つたわトウ〳〵其金は幾度も積み增して數十萬兩と言ふ高に成つたわスルト如何に亞剌比亞人でも斯く大金となると聊か金がほしく成つた

わッゥすると佛蘭西人はメめたと内心喜んたわ亞剌比亞人は金はほしいが馬に別かるゝ事はいやよ稍々久しく考へて居たがドウしても最愛の馬匹を手放す事が出來ぬので猛然として立て馬背に飛び乘り一目散に逃げて仕舞つたわ斯んな人が日本國中辨當持ちで捜し歩るいたとて何處に在るかい俺等亞剌比亞馬の優駿なる豈に偶然ならんやだ

或る時亞剌比亞人が其馬を愛して種々の言葉を掛けて居る中フト次の如く俺等に問ふたわ貴公は予を乘せて行くに登り阪が苦しいか下り阪が難義かと問ふたわ俺等同輩は皆な平らな所が一番宜いと答へたわ

俺も日本へ來て日本人の取扱を受けて以來大分俺の品格が降つたわ丁度殿樣から一足飛びに穢多に落ちた樣な氣持ちがするわ俺も用ゆれば虎ともなるが用いざれは鼠となるのよ大分鼠に近寄つて來たよ此勢では俺の子孫を繁殖させても俺が本國の樣な馬は出來ぬよ「何に日本の風土氣が惡るいと」ソンナ事を言ふて形を罪する樣な奴に迚も馬匹改良が出來るものか如何に風土が惡るくても氣候が惡るくても人爲を以て打ち勝つ處の勇氣がなくつて出來るものか何處の國でも亞剌比亞以外は皆な同し譯よ

俺あ日本へ來て比較的日本人の取扱としては優遇を受けて居ると言ふ事だが其日本人は俺に如何なる子孫を設けて呉れよと言ふのか其

御註文は未だ嘗て受た事がないわ若しも俺の設くべき子孫に向つて御注文が在るなれば俺に向つて其要求を仕込んで呉れてさ其性質及技能をして子孫に遺傳せしめねば成らぬのよ然るに一つも此要求をなさずして彼れ人間の理想通りの子孫を設けよと言ふのか夫れで俺が此儘で只生きて居れば宜いと言ふのかョシんば俺を以て欠點なしとするも其俺の美性美能を持續せしむる爲め温習させて呉れねば成らぬ譯ではないか人間の鼻唄でも久しく歌はねば忘れて仕舞ふわ俺が死る迄には何も蚊も忘れさせて仕舞ふと言ふのか俺の技能を進めるどころか俺の有する特技持性をも保留せしむる所の注意を拂はずして遂には俺をして殿樣より降つて穢多に下落せしむると言ふのか斯んな事では俺も切角種馬と成つて來た資格が失せて仕舞ふわフ、ウ、

(二十四)洋馬　曲馬號

洋馬曲馬號曰く俺あ或る曲馬師に伴はれて世界中を經廻つたよ歐羅巴の曲馬場は歳久しく遣つて居るから今用いて居る馬匹は皆夫れ々々血統が有つて其父は何々の藝をやつた其母は何々の藝をやつたと言ふ樣な牝牡が揃つて子を拵へるから出來てくる馬兒も中々偉いものに成るよ併し之れに伴ふ處の人間の技倆が拙で有つたら夫りヤ駄目よ馬が良くなれば成る程人間の技倆が伴ひ進まなければ成らぬよ

人間さへ良ければ少々馬は悪くても其悪い丈けの相當の藝はやるよ
極端な証據を言へは俺が日本へ來てから俺が主人は日本の小さな馬
を一頭買つたよソウして夫れに色々の藝を仕込んだよ朝に晩に氣長
く仕込むから二ヶ月計りで其馬が藝を覺へたよ併し骨格が悪いから
優美な歩法抔は出來ぬけれど虎の樣な衣物を着て虎の眞似をしたり
犬の樣にチン〳〵したり地べたへ寢たりと言ふ樣な事は皆遣つたよ
今でも日本人同志で廢馬抔集めて曲馬をやつて諸方を廻つて居る者
が有るが其れが其濫觴よシテ見れば日本人も全く馬に不適當な人間
では無いよ只馬匹の事に冷淡な處の習慣が悪いよ此人間に馬術志操
を涵養すれば馬匹は強て改良せずとも在來の日本馬でも自在に其用

途に充つる事が出來るよ夫れと同時に馬匹の改良が出來れば上々吉
よ俺あ日本の都の中に一ッの馬場もなく偶々公園や神社や佛閣抔が
在れば皆是れ乘馬入る可らずとかマダ〳〵ツイ近頃迄平民が乘馬す
るとお廻りさんが誰何すると言ふ樣な方針で在つたじやないか斯ん
な風でドウして馬が流行る者か都の眞中で電車や馬車や人力車が一
抔で其道路には別に馬道の設けも無い處で馬に乘れと勸めた處でド
ウするものか日本人が馬嫌ひに成るのは當然の事よ俺等歐羅巴の都
の中には曲馬場が四ッも五ッも有らあ乘馬する馬場は二區毎に設け
で有らあ夜になると皆俺等のやる曲馬を見に來らあ俺が出ると何時
も拍手喝采湧くが如しよ夫れで俺も益々乘り氣に成つて奮發するわ

日本の様な馬術に對する冷靜な風では何分俺あ奮發し兼ねるよ願くは俺等を煽動て上げて立派な歩るき方抔させて見物から喝采を博する様な日本人に巡り逢いたいわ競馬も近頃盛んな様だがアリヤ只速力を爭ふ丈けで其外に別に馬術の妙味は無いわ競馬計り追ふた馬は口が強くて下手には乘り切れぬ様になるわ夫れで馬の體力を試驗するには宜いが高等馬術や曲馬抔の目的には適せぬよ俺等が人を乘せても口が輕くて足が輕くて波狀駈足で恰も激浪の打ち寄するが如く躍り歩るいても糸の韁で自在に導き得ると言ふ様な妙處が無ければ何にも面白い事はないよ日本の馬の様な強い岩の様な口向きで硬い棒の様な體軀では馬術の妙味はナト分り悪いよ日本では馬術と言ふよりも人馬相互に格闘して居るよ人は馬を虐待する馬は人に抗抵すると來れば何處迄遣つても遣れぬはやる程互に其怨恨を深くする丈けよドウカ人馬の媾和談判でも開いて日本人と日本馬とお互に讓歩して今少し俺等の乘御法や取扱法を進めて貰ひたいわ今若し東京の眞中で馬術共進會でも開いたら果して澤山出場する騎手が在るであろふか恐く二三人以上は有るまいよ斯んな事で馬匹改良が出來たら肝心の人間が間に合はぬわ俺あ夫れが氣の毒なわ心配なわ

數寸頭の馬を長鞭一本で使つて踏舞をやらせるとか色々の運動をさせるとか丸馬場内で高等馬術の妙處を演するとか言ふ様な事は日本人にはマタ出來ぬわ眼前此様な事を見なくて何んで馬術が進歩する

ものか我家を出て辛ふじて目的地に達する迄無事に鞍上に在るものは馬術では無いよ寧ろ人力車の方が便利で氣が利いて居らあ都の中に常設曲馬場でも拵へて今少し日本人の眼を醒ましさねば駄目だよフ、、ウ

(二十五)駄馬　應召號

駄馬應召號曰く俺あ或る時召に應して或る所の駄馬に任ぜられたよソウして俺を牽く處の牽手君は俺等を怖がつて碌偶ま手入も仕て呉れぬわ併し俺等の仲間の中には隨分民間で虐待を受けた奴つで前科數犯の惡垂れ馬が在つたから怖がられるのも無理はないのよお負けに其惡垂れ馬等は皆有罪馬で常に喧嘩腰を構へて居るから溜らないわ夫れを去勢もせずに其儘使用するから猶更ら溜らないわマダ〳〵俺等を取扱ふ處の牽手君は未だ當て馬に接した事は無いと來て居るから困らあ俺等を取扱ふ處の教育抔受けて居る隊は無いわ昨日召集明日出發某所へ赴むけと來たわ此騷ぎの中に惡垂れ猛獸はお互に喧嘩を始めて喰ひ合ひ跳ね合ひするわスルと牽手先生我れ先きにと皆々逃けて仕舞ふわ取り鎭める人は一人も無いわ駄載の荷物は落ちる俵は破れる鍋は壞れると言ふ始末よ夫れ計りなら器物のみの破損々害だがお氣の毒なのは牽手の負傷よ蹴られたり喰ひ附かれたりで忽ち入院すらあマダ〳〵負傷なら快復もするが即死者も在つたわ是れ

が戰場の負傷や戰死なれば名譽の負傷とか戰死とか言ふて吳れるが俺等の惡垂れ仲間に蹴られたり喰ひ附かれたりして名譽の門と出を止められ即死の不幸を見るに至つては慨歎の至りではないか若しも彈藥が偶發した拳銃を誤發したと言ふて毎日々々數名の負傷者を出して見よサア大變巡視が來るやら訓示が出るやら取扱細則が出來るやら大騷ぎよ馬に蹴られたと言ふと何せ人間はフツと言つた切り驚か無いであろふか眞逆俺等の樣な惡垂れ馬は人間を死傷せしむるを以て本分とす抔と言ふ原則も有るまいよ何せ人間は俺等を去勢して喧嘩せぬ樣に平生から仕て置かぬであろふか

夫れから俺等が毎日々々澤山の仲間と一所に歩るくに當つてやたね

牽手先生生ま嚙りに俺等を牽く事を習ふて一生懸命俺の口元を握つてソウして俺の肩先きに寄り添ふて行く事よ夫れで泥道抔では俺の跳ね上げる泥で牽手先生頭から泥塗れ丸で人間と言ふよりは泥の塊まり生きた土人形よ縱令ひ泥塗になても構はぬ處の精神紀律は感するに餘り有りだが俺等もソウ規則通りに口を取らずとも別段逃げ走りはせぬわ却つて牽手君が俺の肩の邊に御坐るが爲めに俺あ歩るき方に邪魔に成るわ此樣にせずとも俺あ前馬に隨行して行くから牽手君は俺の口元から離れて適宜に歩るかれたら宜さそふなものじやと思ふたよ俺も何時でも處ろ嫌はず逃げ出すでもないわ前の同輩に附いて行き出せば最早俺の口元を取らずとも大丈夫よ儀式の時と實用

の時とは聊か取捨を加へても宜さそふなものよ前の馬の尻を噛じる馬が在つても其時々制裁を加へて敎育しつゝ歩るけば夫れで直るよソウすれば俺等の長經も余程減する道理ではないか能ふ可くんば俺等の口を取らずに歩るく事に馴して貰ひたいよ餘り心配して俺の口を持ち詰めにすると俺あ却つて歩るき悪うて癖に障らあ夫から途中で休んでも牽手君は元來愛馬心抔は薄いから俺に草一ト筋呉れるでは無し況んや水與へに於てをやだ或る乘馬抔は休止の時足を掃除して貰ふて水や草抔貰ふて大いに疲勞を醫する事も有る樣だが俺等は迚もソンナ愛護は蒙る能はずよ啻に愛護を蒙る能はざるのみならず行進間彼れ牽手君の自から背負ふべき其身邊の道具や辨當迄も皆俺の鞍上へ載せるでは無いか昔の畠山重忠君は阪路に逢ふて却つて馬を背負ふたと言ふ咄が有るが今此有樣を聽いたら果して重忠君は地下に瞑する事が出來るで有ろをかお負けに夜るに成つて荷物の受け渡し抔する時は夜がな夜通し歩るき詰めよ飼方も休め方も一切注意を拂はずしてソウして俺等が弱い抔と吹聽せられて溜るものか縱令ひ鐵で拵へた馬でも保護が悪るけりや直く破損すらあ況んや俺等に於てをやだ偶々宿へ着いて休息に移つても牽手先生俺等の鞍を背中より卸さぬ事があるわ其理由を察すれば全く必用止むを得ない時計りでなく翌朝更に鞍置きするのが難義なる故よ成る程身の丈けの低い牽手君で重い鞍を取つたり置いたりするのはナト御困難を感ぜら

るゝも無理は無いが俺の鞍を夜中置き通しとは聊か無慈悲ではあるまいかソコデ俺あ燒糞だから鞍を置いた儘其儘轉りと寐て仕舞つたよサア今度起きよふとすると鞍が厩の横木に懸つて起きる事が出來ぬわトウ〳〵肚帶が切れて漸つとの事で起き上つたわ朝に成つて牽手君が來て見ると鞍は糞塗に成つて落ちて居る夫れでも牽手君はマダ肚帶の切れて居る事に氣が着かぬわサア鞍置と成つて二三人掛りで俺に鞍を置いて見ると肚帶は切れて居つて役に立たぬわソコデ上役のお方にお屆に及ぶと言ふ始末よ上役樣はブウ〳〵小言を言ふわ預備の肚帶とては無いから仕方が無い間に合せに外の麻繩で括り締めたゞけ俺あ其日少し歩るくと直く肚帶擦傷と來たわ夫にも構はず引かれては行くものゝ蠅が多くて俺の擦傷部を喰ひ立てるから溜らないわ俺あ是れが爲め遂に途中に殘されて居つたが人間の樣に別に治療所も無ければ病院もなく僅かに飼葉を貰ふて居る丈けで療治も手當も仕て呉れぬわ丁度マア捨てられたのと同樣なものよ夫れで毎日毎夜蠅や蚊に責め立てられて俺の肚は次第に其擦傷部を喰ひ嚙られ喰ひ擴められて大な大赤剝けに成つたよ漸つと冬に成て蠅が居なく成て人手を借らずヤットの事て自然に直つて歸つて來たよフ、ゥ

(二十六) 乘馬　片口號

乘馬片口號曰く俺あ性來右口が强くて其結果鼻面は何時も左に向き

右の項は右方へ凸出し左の項は之れと反對に凹陷して居ると言ふ有様だから騎手が韁を執つて俺を前進させ様とすると俺あウンと右勒を噛み締め右口に掛かり左へはクル〳〵廻るが右へは一歩も廻らぬ始末よ丁度人間て言へは彼の書生輩の左肩黨と稱する左の肩を怒らし聳かして歩るく様なものよソコデ此頑癖の俺様に乘る處の騎手君はドンナ方法を用ゆるかと言へば或る騎手は俺の首の曲がつて居るにも拘はず只前の馬の尻へ附いてノッ〳〵と歩るく丈けよ偶々卷乘りと來るとサア大變少しも右の方へは廻らぬわ騎手は只一生懸命俺を右へ引廻はそふとする俺あ廻るまいと閊がく俺と騎手とは雙方共に汗水流して一大格闘が始まらあサア格闘と成り力ら較べとなるとソリヤ俺の方の力量優勢にしてヘッポコ騎手の及ぶ所にあらすでね何時も俺の勝利よ此格闘を幾度も操り返すうち俺も次第に騎手を弄ふ處の手段が上手に成つて遂には騎手を乘せた儘ノッ〳〵と厩に歸る様な奥の手迄も覺へたよ全體人間は戰はずして人の兵を屈するものは策の上なるもの抔と言つて居るがコンナ格言は俺等馬匹には毫も應用する處の智慧が無いものと見へるわ無暗に俺と格闘して無闇に俺に負けるは策の下なる事を知らぬであろふか騎手の奴等は徒歩作業抔と折々口には言つて居るが頓んと實行は仕無いわ偶々實行する騎手が在てもホンノお呪的にする様な風で何んの役にも立たぬわ効力ある迄やる處の忍耐も無ければ經驗も無いものと見へる俺も此

片口が直つて立派に國家の爲めに活動武器と成りたいは山々なれど何分此不當極まる乘御法と拙劣極まる操作とに對しては服從すべき餘地がないわ或る日の事少し詎のある少し偉らそふな上役らしい人が俺と騎手との格闘的馬術に向つて八釜しく小言を並べつゝ在つたが遂にダァ予に貸せと言つて代つてお乘りに成つたよドウするとかと思ふと俺の強い方の右の韁を執つて而かも兩手で執つて俺の首を無理遣りに右の方へ向けるべく曳や々々と引き始めたよ俺も一生懸命抵抗を繼續して丁度朝比奈の甲冑引きの夫れと同じよ其中俺あ一ト振り首を振つて騎手の力を削いて遣ると右韁は俺の頭を超へたから溜らない騎手先生物の見事にお落馬と來たわ俺あソコデ厩へ逃げ歸ると丁度其時解散の合圖が鳴つたから其儘休足と來たよ以來此の手で遣れば大概の騎手を投げ飛ばして置いて厩へ逃げ込む事は何の造作もない事と思つたよ併し俺も何時迄も此樣な癖馬で推し通しては國家の爲め不忠なり不義なりと考へてさドウカ良騎手に逢ふて適當なる教育を受けたい眞乎の活動武器に成りたいと思つたけれど上役でさへアノ通りだから何分俺を適當に調教して呉れる處の騎手なきを奈何んせんやだ俺も仕方が無いから千思萬考の結果遂に宿直先生の夢枕に立つ事に決心したよ恰も是れ夜雨瀟々寒風慘慄たるの時ソッと厩を脱け出し宿直先生の窓外に至り呼んで曰くお宿直樣々々彼れ臥床より答へて曰く誰れか「俺あ馬なり例の片口號なり」宿

直先生夢幻の中にも聊か驚いたものと見へ「何に馬だと何しに來た」「ト、當番放馬だ捕へろ」と呼ひそふなから俺あ忽ち彼れ宿直先生を夢幻の中に魅して仕舞つて愈々夢枕の一條と相成つたよ

オイお宿直樣俺あ性來片口に生れ其結果として何時も調教場裏に於て格闘的乘御を受くるに非されば無爲的乘御となる是では到底俺あ何時迄經過ても立派に活動武器として國家の干城たる事は出來ぬわ俺あ夫れが悲しいから今夜態々君の枕邊に來て俺の希望を述べるのだ君一ト通り聽き給へ俺の片口を直そふとして無闇に腕力に訴へたとて夫れが俺に分るものか君等が腕力に訴へれば訴へる程俺あ虐待と心得るから俺も俺の力のあらん限り抵抗するわソウすると君等人間の力らは俺の十分の一にも足らぬから俺に負けるは當然の事よ何ぜソンナ事をせずに温和に忍耐に俺を滿ま し嫌かして調教して呉れぬであろふか俺等元來人の使役に供給せらるべき特性を持つて此世に生れて來て居るから適當に教へて呉れさへすればドノ樣にも從順に成るよ夫れを知らずして壓制征服繼子虐めをするとは甚た以て其意を得ぬ全體人間は萬物の靈抔と言ふが俺から見ると干物の靈にも成れぬわ君等も不定全なから相當の教育を受けて來たじやないか理屈を言はしたら俺等の調教には温和を主とするとか忍耐を必用とするとか言ふたろふがザテ實際と成ると全く反對て虐待的暴舉を敢てするとはマア何んたる癖事ぞ或る騎手の如きは俺を見て此馬は項が曲

がつて居る不具た畸形た抔と言ふ奴もあるが俺が若し項の曲がつた不具馬畸形馬なら購買者の眼の前で合格せぬのよ願くは罪を俺に被せるなよ調教を完成せば此項の形ちは直るよ俺の片口を直す爲めには先づ徒歩作業から遣つて貰ひたい預行無しに最初から鞍の上の操作に掛かると一層俺の抵抗力を増すからね其法は先づ轡を乘馬した通りに徒歩した人が執るさ而して俺の肩の邊に立つて徒歩して騎手が轡を執つて俺の鬣甲の上の邊で拳を作用して俺の向き悪い右の方へ轡を引て向けて吳れるさ鞍の上に人が居らぬから俺も抵抗せずに其方へ向くさソコデ宜しい々々と言つて俺を愛撫して吳れて食物を吳れるさ併し從順に向くと言つて始めから要求を過度にすると俺あ忽ち抵抗を始めるぞ極めて要求最小限にして次第々々に進まねば不可ぬぞ夫から三回や四回位遣つたとてお呪にもならぬぞ百回もやれ二百回もやれよ十日も遣れ二十日も遣れよソウすると俺あ喜んで右に向く樣に成るわ夫から其間に調口法を遣つて俺の下顎を柔軟に開閉する樣にして吳れて夫から遂に乘馬して頭を右にして見よ俺あ此準備あつて茲に始めて素直に右に向くわサア俺が右口に抵抗せずして素直に右に向き出したとて無暗に過度に無闇に強く操作してノベソに遣るとソラ以前の虐待が來たと思ふから又抵抗を始めるぞ一ト度び遣り損ふと百度びの修正を要するぞ必ず々々一動作毎に愛撫を加へつゝやれよ君が若し愛撫を怠れば俺も服從を怠るぞ此要點を

忘れるなよ併しコンナ動作計りでは俺ぁ運動が足らぬから調馬索で運動さして呉れぬと不可んぞ其調馬索運動中にも駐めて愛撫して食物を呉れる事を屢々して呉れ余り久敷く片息になる迄追ひ廻はすと俺ぁ逃げ出すぞ駐めた時には調口法と頭右左との徒歩教育をも遣つて呉れ俺の癖を直す爲めには終始一貫專心一意で無くては駄目だぞ鳥渡理屈を聽てオイソレと出來るものなら二十年も三十年も風雨寒暑の厭いなく鞍上に在つて辛苦勉勵する人は無いわ君よ願くは此等の要領の合點の行く迄勉强し給へ全體君等は先輩が悪いから遺傳の恩惠に浴する事の幸福を缺で居るよ夫れだから何んでもない事をも非常に六ケしい樣に思ひ造作も無い事をするにも洵とに不細工だ之に反し細心注意すべき事は却つて無造作無頓着な事が多いわ鈍間の不細工無頓着の、不器用と來たら眞に俺等の癪に障らぁ何卒ぞ俺等動物に對する感念を養成して其實際を研究して呉れ給へ俺等も矢張り感情的動物だから俺等の心に承諾を求めずして無理往生に遣つけろとはソリヤ無理だ君等が人を教育するにも第一精神教育に重きを置くでは無いか俺等馬匹も亦た精神教育が第一の必用よ人間の心が悪るければ大勢集まつても烏合の衆だと言ふでは無いかソンナヲ俺等の集りで其心が悪るければ天狗の衆とでも言ふべき比較よ此癖馬に附與するに天狗の性質を以てしてドウして制御が出來るものか兎も角調教の良否は俺等馬匹の價値に關係するから願くは君等の馬術を

進めて其調教の効力に由り俺等の價ひを山よりも高くし俺等の口向きを毛よりも輕くして吳れ給へ例の亂暴を敢てして俺等と格鬪し爲めにお落馬成されてお怪俄過ちの無い樣に願ひたい宿直君よ兎に角氣長く順序立ちたる調教を施して吳れ給へ一歩々々に敎へて吳れ給へ俺が從順に操作に應じた時には直ちに愛撫して吳れ給へ但し俺が荒れたり怒つたりした時に君等の恐怖心から沈靜するとして愛撫して貰ふのは嫌やだよ何せなれば愛撫を受くると俺あ又其狂言を再演するからね俺が從はぬ時は宜しく懲戒を加へ給へ併し未だ敎へぬ事に向つて懲戒する事は御免だよ願くは俺が從ふべき事犯す可らざる事を操作なり音聲なりでヨーク解る樣に遣つて吳れ給へ君が御所持の馬術書にはナヤンと其操作が書いて有るからアノ通り遣て吳れ給へ解らぬ感觸を與へて俺に推察せよ抔言ふ謎的乘御法は俺あ眞平御免だぞ斯く言ふ中に鷄鳴晨を報じ早起當番はソロ〳〵起き始めたから俺あ蹄を旋らして厩に歸り擦板上の薄き寐藁の上に休臥したよサア翌日癖馬調教の時刻となり調教掛りの面々集り來るや宿直先生は諄々と癖馬調教の精神的調教法を說き始めたよ曰くさ全體汝等の調教法は虐待的亂暴的にあらざれば盲從的無爲的だ兩つながら不可ぬ宜しく馬匹の精神を調教し彼れ馬匹をして悅服せしむる如く嘴まし賺かして一歩々々に敎へ込まねば成らぬ彼の片口號の如きは先づ徒歩作業からやれ元來彼れ馬匹の力らは人間の數倍なれば到底腕力

を以て相爭ふ能はず腕力に訴ふるの不利なるは火を睹るよりも明瞭だ我々人間の精神教育が惡るければ烏合の衆で濟むけれど彼れ馬匹の精神教育が惡るければ天狗の衆となる樣な比較であるから聊か以て感心せざるを得んやた烏の衆りは散じて遺棄せる汚物を求食るに過ぎぬが天狗の衆りは散じて人間を攫み去るぞ抔と夢枕の一條は逐一說き得て明瞭であつたがサテ愈々實行と成ると例に由て例の如く頓と諧らぬ温和とか忍耐とかは皆な誤用せられて矢張無爲盲從よ是れと言ふのも彼等騎手の素養が根本的に不完全な教育や間違つた教育を受けて其手や脚は皆な死んだ樣な奴計りだから仕方がないわ手と脚との操作を巧妙にしなくてドウして俺等を操縱する事が出來るものか若し然らずして只鞍上に中心を保つ丈けなれば人力車に乘るも電車に乘るも同じ事よ人間君よ願くは癖馬調教の出來得る迄に君等の馬術を研かき上げて以て俺等をして不幸の境界より救ひ出し惡癖を變じて良習となし國家に對する俺等動物の義務を果させ給へヲ

(二十七)乘馬　拒退號

乘馬拒退號曰く俺あ或る役の當時に於て徵集に應じて或る所へ這入つたよ俺等の相手の人間も皆新たに召集せられた人で新馬調教抔言ふ事は誠に以て感心せぬ事計りよ或る日の事俺を調教しつゝある中

俺に退却を命ずべく無闇に俺の口を引くわ俺あ民間に在つて退却抔言ふ事は未だ嘗て遣つた事が無いから俺あ薩張り合點が行かぬわソウすると引くは々々々轡が切れるか俺の口が裂けるか二タつ一トつと言ふ樣な場合に成つて遂に俺の口は感覺も失ふ如く麻痺して仕舞つたわ俺も一生懸命縱令俺俺の前肢が四十五度以上に傾斜するも寸歩も退却すまじと決心して相爭ふたわ騎手先生仕方無しの腹立ち紛れに俺の頭を鞭で打ち始めたわ俺も最早窮鼠の勢ひと成つて退却所か却つて引駈けて前進を始め畑とも言はず河とも言はず所ろ嫌はず引駈け廻つて遣つたよサア漸く俺が駐ると誰れも彼れも皆俺の側へ集まつて來て此强情蓄生とて打つやら蹴るやら大騒ぎよ折柄其場所へ偉いお方が巡視に來たよスルト報告して曰くさ此馬は强情でドウシテも退却致しませぬと偉い人曰く君等一體全體ドノ樣な事を仕た一つ遣つて見せよと來たわソコデ以前の如く俺の前肢の四十五度的になる迄引いたわ偉い人見て曰くソリヤ不可んソンナ亂暴な壓制手段は不可ん其樣に口の裂ける迄轡の切れる迄引たとて元來退却を知らぬ馬が退却する道理が無い抑も退却を拒むの根據は後肢に在るのだから後肢の移轉を敎へねは駄目だよサア僕に貸し給へとて偉い人自から徒歩にて俺の口を取つたよドウするかと思ふと左の手に俺の口を取り右の手に鞭を持ち俺の左肩の處に在て俺の左腰に向つて鞭を示すわ俺あ例の解らぬ奴等の常套手段と輕蔑して少しも感せずに

居ると鞭は忽ち俺の腰にピシャリと來たわソコデ俺の腰を右の方へ寄せて避けたわスルト先生宜しい〳〵と來て俺を愛撫したわ今度は又俺の右肩の方へ廻つて來て例の通り遣つて俺が應しぬとピシャリと來るわ俺あ又腰を左の方へ避けたわスルト先生又宜しい〳〵と來て愛撫するわ夫から左右交る〳〵鞭を示さるゝので俺あ又例のピシャリが來ると思つて右へ避け左へ避け腰を寄せたわスルト頸や腰に向つて愛撫を受け食物抔吳れるわ俺も後には愛撫を受け食物抔貰ひたさに鳥渡鞭さへ見れば腰を寄せたわ其中俺の後肢は右左へ寄る事を覺へて其運動が輕く成つて來たわスルト先生今度は俺の正面に立つて俺と對向して兩口を取つて後の方へ押したり弛めたりして俺に退却を促すわ俺も已に後肢の横へ寄る事を覺へた後ちだから其傳で後とへ一歩退いたわ俺が一歩退却すると忽ち即坐に愛撫よ段々此順序に仕込れると俺もツイ〳〵愛撫が受けたさに二歩も三歩も四歩も五歩も連續退却する事に馴れたわソコデ先生遂に俺に乘つて更に一歩々々に愛撫しつゝ俺に退却を敎へて吳れて俺も立派に退却運動を覺へたわ何んの事た馬鹿々々しいコンナ事に騎手は赤くなり青くなりして汗水流して俺と格闘してさ俺も其時汗ビッショリで恰も蒸し立の饅頭の如く湯氣の煙りで濛氣に包まれた船の樣で方角も何も分らなかつたよマア情け無い馬術の境界ではあるまいかフ、、ウ

(二十八)乘馬　拍車號

乘馬拍車號曰く俺あ性來酸感性で拍車でも脚でも俺の腹部に障るのは大嫌ひよ若しも少しでも障れば直くにピン〳〵蹴つて遣るわスルト騎手先生ビク〳〵ものでも脚を俺の腹より成る丈け遠ざけて脚も拍車も全く俺の腹より緣を絶つて障らぬ樣にして乘るわソウすると俺あ脚の操作と言ふものは絶えて受ける事が無くて只輒計りの感觸で運動せねば成らぬわ騎手先生甚だ以て不便だが俺も亦受働機關の一部を缺いて居るから不便よ或る日の事例の通り騎手は俺の腹より脚を遠ざけて乘つて居るとソコへ偉い先生が來て曰くさソンナに脚を馬體より遠ざけて乘つては不可ん脚と馬腹とは常に密接の關係を保たねば不可んと言ふたわスルト俺の騎手は答へて曰くさ此馬は拍車を嫌ふて困ります少しも腹に脚を觸れる事は出來ませんと答へたよ先生曰くハヽア君は拍車を嫌ふ馬にお困まりですかソンナヲ其反對に拍車の好きな馬が宜いのですか私は拍車の好ぎな馬を好みませんヨクは拍車を嫌ふて貰いたいと思ひますと言つたわ騎手は反問してソンナヲ如何にせば嫌はぬ樣に成りますかと問ふたよ先生曰く其嫌ふ事を嫌はぬ樣にするのが調教ではありませんか君の樣に拍車を嫌ふとて始終脚を腹から離して居れば何時直る目的が有りますか到底直る見込はありますまい馬術書には馬若し拍車を嫌ふと言つて脚を

して全く馬體より離隔するの方法を取るのは大なる誤りだと教へて有るではありませんか君はソンナ事を讀んでも夫れを實行的に咀嚼する事が出來ぬと見へる夫れでは困りますね其方法は何も造作の無い事で段々と輕い脚の壓迫より次第に強い壓迫に馴し段々と輕い拍車の刺擊より遂に強い刺擊に馴す如き漸進的方法を取るのですよ一動作毎に愛撫を與へつゝ又抵抗毎に叱聲を與へつゝ遣れば宜いのですよ夫れを遣らねば何年經つても直る見込は有りませんよ其順序で行けば遂には出血する迄の強力拍車をも使用し得るに至るものですよと説明したわスルト騎手先生成る程々々と來て直ちに御實行の幕と相成つたわ然るに未熟の持ち前不細工千萬に脚や拍車の使用を試み始めたわ俺がピリ〳〵すると騎手はホーホー抔と言つて俺の領頸を擦ろふとして前に傾く其際俺の動くのと騎手の傾くのと撞突してツンと拍車が俺の腹に當つたよソコデ俺が一トつピンと蹴ると騎手先生恰も前に傾いて居たからポンと俺の鞍から拋り出されて俺の領頸の上に乘つたよ今度は拍車が俺の胸先に當つたから俺が身震ゑするとクルリと廻つてトンと地上に落ちたよ成る程コンナ不用意な騎手でドウして調教の完成を期せられるものか俺あ思ふたよ世の中に只理屈計り聽きたがる騎手は皆斯んなものよと思ふたよ幾ら理屈を聽いたつて自分の身體を鍛錬せずに成効するものがあるものか理屈計りで直ぐに生き兵法が出來るなら勉强とか練磨と言ふ文字は馬

術界の不用に屬し仕舞ふわマア斯んな騎手は拍車の好きな駑馬で澤山稽古して歳月を重ねて夫からで無くては問題にならぬわフ、、ウ

(二十九)乘馬　調馬索號

乘馬調馬索號曰く俺あ調馬索で輪線上を廻る事が嫌で溜らぬから何時も鼻梁でウンと索を引て遂には騎手の手から索を引放して逃げて遣るよ何せ俺が逃るかと言へば全體騎手の奴等は俺を輪線上に速歩や駈歩に歩るかせて置いて騎手は中心點に突立つた儘半歩も動くのは厭やと言ふ風で俺が廻つて行くと手を後ろへ廻して腰の上で索を持ち換へたり或は頭の上で換へたりして殆んど居眠り否な立ち眠りしつゝある樣な氣拔けのした張合ひの無い風で居るかと思へは或る時は鞭や索の端抔を振り詰めに振り廻して必用も無いのに猥りに俺を打つたりするから俺あ癪に障らあマダ〳〵夫れも宜しとして廻し始めたらノベッに廻して絶へて休憩抔は與へて吳れぬわマダ〳〵左手前で始めたら何時迄經つても右手前に換へて吳れぬわ終始片手前に歩るき詰めよソウすると俺あ自分で後ろ向きに飛び返つて自分で手前を換へて遣るわマダ〳〵不可ぬ時は鼻梁で引浚つて遂に厩迄逃げ込むわ全體調馬索抔言ふ事は教育を受けて居らぬ騎手が多いよ只索を附けて俺を追ひ廻す丈けと言へば何の雜作もない樣なもゝ中々存外ソウは行かぬよ特に六ケしい癖の有る俺等と來たら只逃げる

計りで無く起つ蹴る飛ひ掛ると言ふ始末で俺等を操縦する技能なるものが無くては不可ぬよ乘馬するの下手な奴は矢張り調馬索も下手だよ要するに俺等の意志を看破する事の出來ない未熟の階級に在るからよ俺等の鞍上に騎手の在る時は俺が騎手の手脚の操作に注意すると同じく調馬索の時は其中心に在る騎手の身體動作に注目するよ夫だから騎手の身體動作特に其眼光は俺に向つて一點の透間無きを要すだねソレデ俺の動作を未發に防止する處の鑑識が無ければ成らぬよ縱令へば俺が若し飛び返ろふとすれば先づ俺の眼光に現はれて尻目で後ろを見るかの如き風ある時透かさず鞭尖を俺の頭の方向に示すの類だね夫れで俺か直徑十四五米突の輪線上に行進するなれば中心の騎手も亦直徑二三米突の輪線上に歩るいて貰ひたいねソウすれば俺と騎手とは終始相一致して行進し俺を前方に引き出す事も後方から追ひ出す事も自在に出來るのよ僅かな勞動を惜み僅かな注意を怠つて俺等に輕侮せられ間拔け視せられて調教の結果を零にするのみならず却て俺等をして癖馬の不幸に陷らしむるとは何んたる頓痴奇騎手であろをか俺が後ろへ飛ひ返るも逃げ出すも皆な斯んな奴に腹が立つからよ俺が若し後ろへ飛び返る癖が有るなれば俺が眼光を後方に注くの殺那透かさず長鞭を示して追ひ出し追ひ出しては直ちに其輪線上に駐立させ騎手自ら來つて愛撫し食物を與れて馴して與れゝは宜いではないか此事を操り返せば俺あ遂に後ろ向きに飛ひ

返る事を止めるのよ俺が若し索を引て逃げ出すなれば俺が輪線上を一ト廻りか二ヲ廻り廻る毎にホーラと言つて輪線の中央に引き入れて駐立させ愛撫と食物とで馴して吳れゝば宜いではないか馬術書にも俺等の取る處の頑癖姿勢を反對に矯める事が出來れば夫れで其目的は達しると書いて有るではないか乘御の癖でも調馬索の癖でも同じ事よ何に夫れが面倒だと一ソンナ事では單に俺等の調教々育のみならず何事でも出來ぬわマダ〳〵只に出來ない計りでなく今迄出來て居たものも皆破壞して仕舞ふわ面倒の上にも面倒を見て成績や効果の上るのを樂みとせなくて何んで忍耐温和抔の文字に當て嵌まるものか短氣な騎手で俺等の廻り方が悪いとか逃げ出すとか飛び返るとか言ふ塲合ウンと廻して遣れノベッに廻せ抔と來たらソリャ大變俺等も苦しいから百方思慮を費やし注意を拂つて抵抗するわ世間にソンナ志操の人が存在して居る中は幾ら俺等馬匹を改良しても駄目たよ只に駄目なるのみならず俺等が改良せらるればせらるゝ程夫れ丈け鋭敏の度が增して來て拙劣騎手の手に餘る處の俺等が多くなるあ外國にて種馬を撰定する時ドンナ馬を撰むと思ふか三歲の當時に於て若し其馬を試乘する時兩耳を超へて二三人の騎手を抛り出す位のもので無ければ採用せぬわソンナ俺等が澤山殖へて見よ乘御も調馬索も次第に六ケ敷なるわ是等の事を知らずして已れの拙を柵へ上げて俺等馬匹が悪い抔とは能く言へたのだ

俺等又折々馬丁が旦那の乘らぬ時運動の爲めと稱して調馬索を遣つて居る處を見ると實に噴飯に堪へぬよ索は僅かに二三米突の長さで小さな輪線上に追ひ廻して其索の端を長鞭の代用として恰も風車の如く何時も蚊も振り廻し詰めよ夫から俺等馬匹の方では勝手次第に飛び返りつゝ滅茶苦茶に廻つて物の二三十分も馬丁と揉み合つて居れば夫れてお仕舞よ全體馬丁は俺等を餘り余計に運動させると俺等の飼料が余計に入ると言ふ見地から從つて少しの運動で濟ませるわ其少しの運動で濟むから仕合せよ若しも一時間も二時間もアノ調子で遣られて見よソリヤ大變よ迚も辛抱が出來るものか旦那も旦那たコンナ事で平氣で馬丁に任かせて置くとは氣が知れぬよヶ樣な按排なら寧ろ俺等馬匹の改良は仕てほしくないわフ、、ウ。

(三十)乘馬　駈歩號

乘馬駈歩號曰く俺が右手前の駈歩が出ぬとて無闇に俺の首を左へ曲げて左の拍車を矢鱈に使用してもソリヤ駄目よ此筆法で毎日々々俺を追ひ廻したとて其因て來るべき原因を討究し出來得べき調教の順序を踏み來るに非ざれは俺あ到底服從が出來ぬわ抑も俺等馬匹に向つて歩法を自在にせんと思はば先つ俺の下顎を柔軟にして口向きを輕くせねば成らぬわ俺が口向きに抵抗しつゝ在る間は歩法は到底滅茶苦茶よサテ口向きを輕くして駈歩出發をも自在にすると言ふ事に

着手して見ると是れに附帶して屈撓柔軟輕快と言ふ樣な事を遣らねは成らぬ樣になるわ此必用を感ずれは旋回横歩抔の初歩から遣らねは出來ぬ順序になるわ只單に屈撓柔軟輕快の必用なるのみならず其姿勢や歩法が右に變り左に變り右横歩中に在つても直ちに左横歩に變る如き變化の輕きを必要とする樣になるわ此輕き變化が有るから駈歩中の手前變換も容易に出來る譯よ俺を右駈歩に出す爲め無暗に俺の右肩計り覗き込んでもソリヤ駄目よ俺あ却て肩に重られて駈歩出發の自由を妨害せらるゝわ元來俺の右手前なり左手前なり駈歩に出發すべき基礎は後足に在ると言ふ事を知らぬわ後足の踏み込み正確ならずして俺の肩計り攻めるとは動物機關の構造を識らぬわ又俺の右騎歩の出ぬのは充分に右姿勢が執れぬ故よ俺の歩法は皆姿勢から生み出すわ姿勢を調教せずして歩法を要求するは恰も癡て居る人に歩るけと言ふ樣なものよ若し起きた人を歩るかせても俯向きもあれは仰向きもあるわ其俯向いて腰を屈めて歩るく人に鐵砲を擔かして見よポンチ繪の兵隊が出來らあ俺等馬匹の姿勢に擔はず歩法に擔はず土喰姿勢に放任するのは丁度此俯向きの腰屈みの鐵砲擔ぎよ兎に角單純なる右或は左手前さへも自由に出ないと言ふと誠に以て俺等馬匹の無教育を發表して他馬の前で輕侮を受くるのみならず騎手君も亦拙劣極なる不手際と言はねは成らぬよサテ其右或は左手前を誤りなく自由に出る樣にするには決局反對駈歩が自由に出る樣にな

らねば駄目だよ其反對駈歩迄漕ぎ着けるには屈撓法や旋回や横歩等を充分に輕くして來ねば駄目だよ反對駈歩が出る樣に成れば正駈は何の雜作もない譯さ總て馬術に限らず何事でも一二階段上の方へ目的を着けて遣らねば駄目だよ丁度正駈を間違なく遣る爲めには反對駈歩迄調教すると言ふ樣なもので收縮姿勢で言ふて見ても極端迄收縮して極度迄後軀を低下する事が出來て始めて其姿勢を少し緩めて乘つて貰ふから俺あ口にも掛らず歩樣も輕いと言ふ樣な譯さ此道理が無ければ何んで高等馬術の曲馬的の樣な事が必用で有ろふぞ或る方は西班牙歩調は馬術上何の必用が有るかと言つて質問を試みたと言ふ事だがマア何んと言ふ誤質問だろふ何も敵前抔で西班牙歩調の必用の無い事は三尺の驢馬と雖ども解り切つた事よ然れとも乘術の妙が茲迄進まねば俺等の右手前にもお困り召さるわ況んや口向を輕くするとか旋回々轉杯を輕妙にして敵前動作を自在にする抔と言ふ樣な事は存じ掛けも無い事よ此趨勢で行けば俺等の子孫は愚か後の世紀に至るも尚且つ右手前の出發に苦しむだろをよ馬術と言つても只姿勢が悪るい着眼點が悪るい抔と言つたとて何の役に立つものか極端に言へば人の姿勢は猿の樣でも達者に手脚が働いて俺の姿勢と歩法を立派に仕て呉れゝば宜いのよ人は只俺の鞍の上に在つて手脚て舵を取つて居るが運動をするのは俺樣よダカラ俺の姿勢と歩法に重きを置かねば萬事休すよ運動の方法と言つても只前の馬に跟い

て歩るく計りで柔軟法や輕快法を施さずしてドウして俺が駈歩の手前を誤らぬ樣に成れるものか偶々各個乘り抔と來ると騎手は皆所々方々へ集つて三々伍々馬上の談話會が始まらあ今一歩進めば各個乘りの合圖と同時に騎手は皆ポツケツトへ手を入れて煙草を取り出し、マツチを摺ると言ふ樣な奇觀に成るだろらよフ、ウ

(三十一)乘馬　儀式號

乘馬儀式號曰く俺あ別段是ぞと言ふ特別教育も受けず厚つ唇の太と頸と來て居るから折々は豚君から彼れの同類だと間違へられる位よ夫れだから俺の口向きは何時も岩の樣に強くて俺の體軀は捧の樣に堅いわ併し平生は只前の馬に跟て歩るく丈けだから騎手君は却て俺の口向の強くて縋り力らのあるのに悦んで居る樣なものよ所ろがソヲ或る儀式の時整頓を保つて行進せねば成らぬ時と來るとサア事だ勢力が有ると行進間の整頓が出來ぬと言ふので數日前から滅茶苦茶に乘つて々々乘り飛ばすと言ふ始末よマダ〳〵腮鎖が緩いと大勒が利かぬと言ふのでウンと詰めるわお負けに大勒の喞身は其位置不適當と來て居るから溜らないわ俺の下顎は麻痺して無感覺となるわ夫からイヤ其馬は除けヤレ其馬は後列に入れろ其馬は左翼に置け抔と八釜しい事よ愈々お儀式の前日と成ると午前も午後も休み無しに速歩駈歩の追ひ詰めよ夫れで俺等あゾタ〳〵ヘド〳〵に成らあマダ

〳〵愈々其當日となると整列時間より二時間も三時間も早く式場に行つて汗ビッショリに成る迄追ひ廻はされるわ斯う成れば俺等も最早勢力失却意氣消沈屠所の羊の夫れと同じよ最早馬の整列行進で無く羊の整列行進よ俺等がドンナ歩るき方を仕様と轡は垂直に成ろふと俺の口は地に着いて土を喰ふとソンナ事にはお構ひなくよ只々列の整頓を失はねは足れりと言ふ樣なものよコンナ有樣で禮すべきお方の前で注目も何も有つたもので無いわ是れでは敬意に成らぬわ眞に敬意を表するなら人も容を正すと同時に俺等馬匹も體軀を正さねば成らぬわ敬意に必用な風采を言へば俺等の頭首は天を衝き輕嘶泡を含み鋭蹄中空に躍る所の雄婆でなければ本統の敬意に成らぬわ箱根八里のジャ〳〵馬の上に盛裝した人が姿勢を正したとて何んで敬意になるものか却て人を馬鹿にすらあ何せ平日俺等を調教してケ樣な大騒を遣らぬ樣にせぬであろふか俺あ一ヶ年中或る時は野外で二三週間も半殺しにせられ三四度の儀式には何時も羊に至る迄鈍化せしめらるゝとは何たる不幸で有ふか其癖せ儀式が濟むと其翌日から又例の通りの縱隊運動計りで垂直轡の股覗き土喰姿勢で運動させらるゝわ是では俺も一生浮む瀬が無いわ何せ人間は柔軟とか輕快とか只口に言ふ計りで俺等に其調教を施して吳れぬで有ふか夫れが爲めなら俺等あ午前も午後も乘られても遺憾は無いわソウして儀式の前日に俺等を半殺しに屠所の羊に鈍化せしめぬ樣に何せ教へて吳れぬ

で有ふか騎手君は紀律が立たぬとか稱して俺等の厩の前で一二々々と頻りに歩るいて御坐るが俺等の紀律は何處迄紊亂しても構はぬで有ふか俺等馬匹は活動武器と稱して人間の生命に換へても保護せよと言ふ事が有ると聽て居るが夫れには別段調教教育の意味は含まぬと思ふて居るだろふか只喰はせて生かして置けは責任足れりと言ふで有ふかお負けに運動間に迄も土喰姿勢で土を喰はせて增飼の代用にでもすると言ふのか莫迦々々しい仰ぎ願くは俺等の口向きを輕くして姿勢や歩法を優美にし半化的預行運動無しに儀式抔を務める樣に仕て呉れ給へ騎手君よ今若し駈歩行進の儀式を遣れとの命が有つたらどウ成さる夫こそ大變俺等あ十日も前から責め上げられて廢馬の五六頭も出來るであろふよフ、ウ

(三十二)乘馬　渡船號

乘馬渡船號曰く俺あお宅の玄關に横着けに成つて旦那を乘せて夫から途中を無事に運搬して或る所の玄關や入口に横着けに成つて旦那を卸して歸りには夫れと反對に横着けを遣れは夫れで俺の毎日の任務は濟むから俺あ夫れで渡船號と言ふ名稱だよ何んと名實相適つて居るでは無いか俺あ斯んな途上の行進丈けでは運動が足らぬけれどソコは馬丁がナヤンと氣を利かして俺の飼料の繰り延べを實行して半減の食物を以て俺の勢力を殺ぐと言ふ妙計よ俺も馬並みに卷乘り

の一つも教へて貰ふて飼料の全額を喰はして貰ひたいと思ふけれと世間にも俺等の様な境遇も少なからぬからヤア我慢したよ有り得べき例では無いが是れが若し軍隊の隊長さんの馬でゞも在つて見よ兵隊の前で氣を着けと言つて軍刀を拔て御指揮を成さる事は出來ぬわ何せなれば俺あ平生渡船的で卷乘りの一つも遣らずお負けに旦那も頗る附きと來て居るから溜らないわ今若し假りに俺の旦那が隊長さんで在つたとすれば其拔いた軍刀は何時も肩へ刀の姿勢を保つ事が出來ずして俺を自由に動かす事が出來ないと來たらドウたろふ俺を回轉させたり半輪したりする度毎に軍刀の柄と俺の轡と一所に握らねば成らぬと來たらドウたふろ其風采は丁度馬上の劍舞でも遣る樣な按排たろふよ夫れもよいが若しも俺の乘御計りに氣を取られて御部下に向つて號令を掛ける事を忘れる樣に成つたらドウたろふ其時は可愛そふに兵隊は川へ突當つても藪が在つてもドシ〳〵這入て行く樣に成るわ止れも廻れ右も間に合はぬわ俺も亦斯んな運動をさせられたら平生の預行が無いから少し運動しても滿身汗たらけに成るたろふよ日那も定めて帽子の眼屁は汗の雫でイルミネーションに成るであろふよ夫れで俺も折々は調馬手を賴んで乘つて貰ひたいが併し其調馬手も一人前五十錢の協同調馬手たから駄目よ只俺を馬場の中へ入れてグル〳〵と追ひ廻す丈けの仕合せよ而して飼料の繰延べは依然として例の如くと來るから溜らないわソウすると俺あ營養不

振勢力減耗の結果として抵抗力が弱く成るわ其抵抗力の弱く成るのに向つて調馬手調教のお蔭で以前よりは乗り能く成つたとて喜んで調馬手に向つて感謝の意を表するかも知れぬが若しも夫れなら滑稽の骨頂よ此頃或る所でも俸給増加論もある樣だが俺等の飼料も増加して俺等の飼養と調教とを完全にして貰ひたいわ佐野源的に痩せたりとも抔と言つても日那の腕前が佐野源で無いからイザ鎌倉と言ふ場合にはカヲ駄目よ御部下が川の中へ這入ても號令が出來なくなる譬への樣な羽目に成るから御自身は兎も角調馬手養成法でも實行して貰ひたいねフ、、ウ

(三十三)乘馬 仰反號

乘馬仰反號曰く俺あ第一壁に向つて繋がれるのが嫌ひで夫から桂でも何んでも強い物に繋がれる事は大嫌よ俺が此癖の病源は斯うだ或る日の事俺が繋桂に繋がれて居ると人間の奴等が俺の鼻の先きで喧嘩を始めて双方互に竹棒で敲き合ひを始めたわ人間の奴等は俺が後ろの方に繋かれて居る事も何も打忘れて居るから其竹棒を振り上げる度毎に俺あ鼻面らへ傍杖を喰うわ俺あ溜らぬから一生懸命仰け反つて繋き繩を引き切つて逃げたわ是れが原因で夫れ以來と言ふものは柱や壁に向つて繋がれると又もや竹棒の傍杖が來る樣な氣が仕て

俺の側を人が通れば慄々身體が慄へて耐へ切れぬわ夫れで俺あ屢々仰け反りて遂に項部に負傷したよサア負傷して見ると其疼痛部が氣に掛るから益々反るわ斯う言ふとナト人間には解り惡いかも知れぬが俺等の生來として項が痛いから用心して反らぬ抔と言ふ樣な事は無いわ却つて夫れを氣にして益々反るわ其證據には俺等の綱引と稱して後足を緊張綱に引つ掛けた時を見よ俺等が僅かに後足を元へ戻せば容易く外づれるものを元へは戻さずして引て引て引き飛ばし繫部の骨が露出れても碎けても尙ほ引くわ丁度引駈ける馬に疼い樣な勒の裝置をすれば尙ほ益々引駈けるのと同し事よ其邊は俺等が人間よりも少しく智慧が足らぬと言ふのか或は疼痛に屈しない勇氣が有ると言ふのかソコラは先づ人評に任かすとしてサテ俺の此癖を直すと言ふ一條に至つて人間は隨分淺謀たよ俺が今言ふた理由も知らずして俺が幾ら引ても引き切れぬ樣な大丈夫な綱や躍乘用の頭絡抔で繫いで俺に反る事を止めよと言ふ御註文の調教抔遣つたとてドウシて俺がソンナ事て直るものか躍乘柱の二三本位は引拔いて反つて反つて反り返つて遣るわ俺あ元來怕いから其根元たる恐怖心を去らして吳れねば如何なる鋼鐵の鎖りで繫いでも駄目だよ斯んな無法な考へで俺等馬匹が扱へるものかドンナ馬でも皆癖馬にして仕舞ふ丈けの仕合せは俺の希望を言へば鋼鐵の鎖抔で繫くよりも小さ藁繩で繫で貰ひたいわ何せなれは小さな藁繩だと俺が例の恐怖心を起して反

つた時にも直く切れるわ切れるから俺の項部に疼みも感せぬわ感せぬから俺の恐怖心も少ないわ夫から俺等の仰反りの甚だしいのに成るとテンデ柱や壁の側へ行かぬわ其俺等に對し壁に向つて直角に引き着け樣としてもソリヤ駄目よコンナ時は直接に壁に向つて引く事を斷念て俺を壁と併行に歩るかせつゝ次第々々に壁の方へ近寄せて遂に壁に接して俺を壁と併行に立たせて吳れゝは宜いわ遂には壁と直角に繋がれる樣にも成るわ但し此間愛撫と食物を吳れる事を疎略にすると俺等あ又忽ちフン反り返るわソンナ過失を幾度も繰り返すと遂に不治の難癖と成るよ凡そ俺等の難癖を直して良習を附與せんと欲せば時間を惜まず終日に亘つて氣長く面倒を見て吳れねば不可

ぬよ人間が果して忍耐温和の四文字を遵守するなれば俺等も必ず從順の二字に背く事はせぬよ俺等に接する僅かに二三十分お呪的に成る丈け手數の掛らぬ樣な粗略な事をしてドウして俺等の癖が直るものか凡そ世間に面倒を見ず手數を掛けずして成効する樣な事柄が何が有るであろふか恐くは無いであろふよ若しも有つたら夫れこそ濡手て粟とか棚から杜丹餅とか言ふ所の萬々一の僥倖よフ、、ウ

(三十四)乘馬　裝鉄號

乘馬裝鐵號曰く俺あ或る時管骨部に疼みを感して跛行して休業して居る中馬丁君は其俺の疼痛の有るにも何にも一切お構ひ無しで手入

の時杯俺の足をウント握つて何の用捨も荒々しくお上げ遊ばすと言ふ始末よ俺あ何分疼みに堪へぬから殆んと倒れる樣な風をして無言の動作て其疼痛の有樣を訴へると馬丁君は此蓄生横着野郎抔と言つて鐵櫛で打たるゝと言ふ始末よソコデ俺あ足に手を掛けらるれば次には鐵櫛で打たるゝと言ふ順序を知つたから以來は俺の足に一切馬丁の手を觸れさせる事を拒むべく決心したよ加之に俺あ初めて裝鐵された時に俺が少し動くと忽ち鼻捻と言ふ甚たしい慘酷な器機で俺の鼻尖を捻ち上げられたよ元來俺等の鼻端は感覺の一番鋭敏な所で恰も人間の指頭と同しく食物の採取を爲すへき所よ夫れをマア捻ち切れる樣な强力な鼻捻を掛けるとは何んと言ふ苛責だろふか俺が疼いから動くとマダ捻ち方が足らぬモット捻ちよウント捻ち上げよ抔と言つて何處迄も地獄的の責苦を敢てするでは無いか夫れに俺あ烙鐵の煙りがシユーと言つて白煙の燃へ上がる時は俺の足が火に成つた樣な心地がして滿身の恐怖よマダ〳〵其臭氣が厭でならぬわ俺が怕るれば怕れる程二人も三人も寄り集つて俺の足を捕へ又は鼻を捻ち遂には枠場へ入れて縛り着けて無理遣りに裝鐵の强制執行を受けたよ丁度針鐵强盜の夫れと同じよサア是からと言ふものは俺も充分思考を費やし何とかして此苦痛を免るべく決心したよソコデ馬丁君が俺の足へ手を掛けよふとするとヒンと横蹴りを遣る裝鐵場へ引込ふとすれば忽ち仰け反り返つて退却する百方術を盡くして地獄的苛